

AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA

第30回 報告書

テーマ 未来をみつめて



30周年メッセージと会場風景

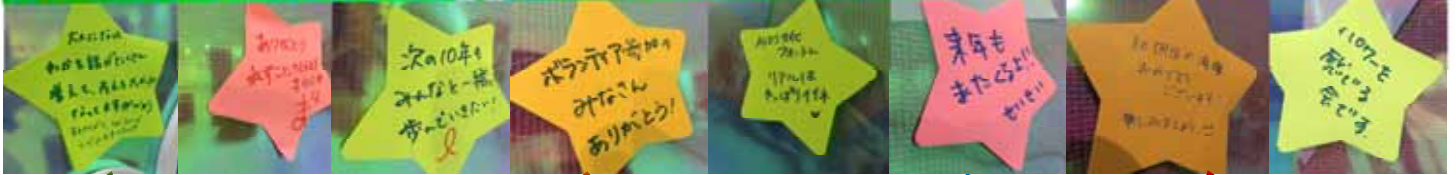


30年間、
会場を支えて下さった
ボランティアの
みなさまに
感謝いたします
N

新しいつながりが
次のつながりに
むくむく成長する
夏!
K

これからも、
時に合った活動が
続けていけますように
HP

興味がないことに
目を向けると、
見える世界が
広がるよ
S



リアルな出会いと
対話で盛り上がる
フォーラムを
続けたい!
SI

日本エイズ学会に
事務局、運営委員の
皆様と出展したことが
思い出深いです。
S

AIDS文化フォーラムを
通してたくさんの仲間が
できました。
星になった仲間にも乾杯!
H

つながりの中に
みんなそれぞれの
居場所があるん
ですよね
M



| | |
|-------------------------------------|------|
| 1. 30周年メッセージと会場風景 | …P 2 |
| 2. プログラム一覧 | …P 4 |
| 3. 開会式・組織委員長あいさつ | …P 6 |
| 4. オープニング「未来をみつめて」 | …P 6 |
| 5. プログラム | …P 8 |
| 6. 展示ブース | …P23 |
| 7. 広がるAIDS文化フォーラム | …P28 |
| 8. 新聞記事 | …P29 |
| 9. フォーラム全体集計表 | …P30 |
| 10. AIDS文化フォーラムin横浜 30回の歩みー開催概要と経緯ー | …P32 |
| 11. 第30回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち | …P35 |
| 12. AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約 | …P36 |
| 13. 協賛・寄付 | …P37 |
| 14. 参加団体等名称・索引 | …P37 |



AIDS文化フォーラム in 横浜とは？

1994年に横浜で開催された国際エイズ会議をきっかけに、市民の手で市民のために始まったフォーラムです。HIV/AIDSに関する様々な活動を行うNGO/NPO、学生、HIV/AIDSと共に生きる人々、行政、個人が集まり、発表・展示・交流を行っています。たくさんの方々の温かい思い・ご支援により、「手弁当」の市民フォーラムも今年で30回目を迎えました。第27回、第28回は新型コロナウイルスの影響により、オンライン開催となりましたが、第29回からは神奈川県民センターに戻り、今年は従来通り教室でのリアル開催と、ホールでのハイブリッド開催となりました。

「文化」の2文字

なぜAIDS「文化」フォーラムなのか？それはフォーラムがHIV/AIDSを医療だけの問題としてとらえるのではなく、広く文化の問題としてとらえることに重きを置いているからです。セクシュアリティ、依存症、ジェンダー、セックス、若者、ドラッグ、学校、教育…私たちの生活＝「文化」とHIV/AIDSは深く結びついているのです。

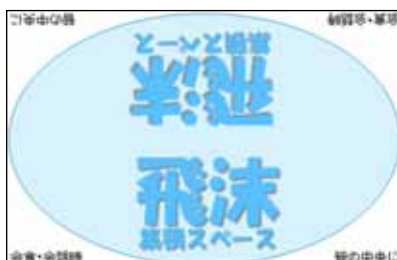
報告書作成にあたって

フォーラム3日間だけではなく、事前準備を含め、参加者の、支えてくださっている方々の、そして運営委員の熱気を伝えたい！そんな思いから、報告書には来場者の声や会場の様子を伝える写真をふんだんに取り入れています。また、フォーラムでの出会い、つながりをきっかけに、それぞれの団体や個人がつながりを深め、活動が広がっていくという願いを込めて各団体の連絡先を掲載していますので、活用していただければ幸いです。

感染経路対策資料を配布

ウイルスは、どこから、どこへ、どうやって

このことを考え続けることが感染症対策の基本です。しかし、このことを浸透させるのは容易ではありません。今回、ホール会場参加者全員に感染経路対策を説明した資料を配布しました。




プログラム一覧

8月4日(金) プログラム

8月4日(金) 10:00~12:00 2F ホール+YouTube 配信
開会式・オープニング
未来をみつめて
後藤智己 (はばたき福祉事業団)
奥井祐斗 (HIVと共に生きる会社員)
北山輝子 (神様がくれた HIV 著者)
白飯琢磨 (エイズ予防財団理事長)
岩室神也 (AIDS文化フォーラム in 横浜)
1994年に第1回国際エイズ会議が横浜で開催されたと同時に始まったAIDS文化フォーラム in 横浜、あれから30年、治療法も、福祉制度も大きく変わりました。一方で、HIV/AIDSでの様々な経験を社会全体で共有できているのでしょうか。HIVと共に生きてきた一人ひとりの思いを分かち合いたいと思います。



8月4日(金) 13:00~15:00 302号室
授業中での「同意」の気づき
心地よい心とからだとのつきあい方
講師 有美祐子
「教員から問われたら答えなければ」と思ってしまうか、
答えたくないこともあるのではないのでしょうか。




8月4日(金) 12:20~12:50 303号室
すきま講座 ①
山田雅子 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員) 短時間で振り返る HIV/AIDS の基礎


8月4日(金) 15:30~17:30 2F ホール+YouTube 配信
違法薬物の未来をみつめて
松本俊彦 (精神科医、風防院 (保通司、NPO 法人アスク社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者)、
榎本聖一 (元NHKアナウンサー)、ビースさん (医師、岩室神也 (HIV 診療医)
違法薬物での検挙報道が繰り返されています。一方で教育現場では「ダメ、絶対」教育が繰り返されています。いま、本当に必要なメッセージは何かを薬物使用の経験者の方と共に考えます。



8月4日(金) 13:00~15:00 2F ホール+YouTube 配信
多様性と文化 2
～多様性は理解できるもの? 分かち合うもの?～
かづえちゃん (YouTube) ナナさん コンドームの達人 榎
LGBT 理解促進法について各自の体験から学びたい。LGBTQ やホミニアウトという言葉がなくなる社会を目指したいものです。




8月4日(金) 15:30~17:30 301号室
誰もがみんなマイノリティ
岡 葉叶 (株式会社ファーストベンジン 代表)
横浜 YMCA 国際・地域事業
マイノリティって、どりいうこと? 自分らしさはどうもちがいの?
10代の講師による等身大のメッセージに耳を傾けてみませんか?




8月4日(金) 13:00~15:00 301号室
ドキュメンタリー映画: カミングアウトジャーニー
福正大輔 (公認心理師・ASK 認定依存症予防教育アドバイザー) のトークライブも
2022年度、舞台公演・福正大輔が友人、職場、家族への
カミングアウトする物語。30代、30代は薬物とアルコール、
セックスに依存し続けている人が増えている。HIVのこと、感染のこと、
自身のカミングアウトのこと、HIVのこと、感染のこと、
すべてをさらけ出す覚悟はどのくらいあるか。
本書が読者の心から伝えているように、つまずき、いばれ
ている人こそ読んでほしいドキュメンタリー映画。



8月4日(金) 15:30~17:30 302号室
HIV/AIDS の基礎講座
山田雅子
AIDS 文化フォーラム in 横浜を要し、理解するために必要な、エイズ、HIV/AIDS の基礎講座です。




8月4日(金) 15:30~17:30 303号室
お坊さんが行う性教育授業 ver.11 吉川潤哉
LGBTQ フレンドリーな葬送の実現に向けて 石原千晶
性と性上を考へる中高生向け性教育授業の話と、LGBTQ フレンドリーな
葬送とお墓の話についてをテーマで実施いたします。



8月5日(土) プログラム


8月5日(土) 10:00~12:00 2F ホール+YouTube 配信
ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくり
戸塚比 (08) オフィス TOBA (前横浜商研所)
佐々木亮平 (横浜市都市計画課アドバイザー、岩手医科大学)
岩室神也 (横浜市都市計画課)
横浜市都市計画課の戸塚比さんと共に、ノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりを
目指した理由、推進するにあたっての課題等、まちづくりの大切さと大変さの両面から考えます。




8月5日(土) 13:00~15:00 2F ホール+YouTube 配信
未来を考えるための宗教
(宗教と AIDS Part18)
水上隆次 (合同チャック協会 主任司祭)
平良愛香 (日本基督教団札幌教区牧師、合同チャック HIV/AIDS グループ委員)
吉川潤哉 (浄土真宗本願寺派浄土宗僧侶)、岩室神也 (運営委員会)
今年で18回目を迎える「宗教とエイズ」は AIDS 文化フォーラム in 横浜が独自の視点で考え続け
るための柱と異なってはならないコマです。未来をみつめるために宗教が果たす役割を考えます。



8月5日(土) 10:00~12:00 302号室
看護師からの性教育 ~性教育を語ろうよ~
星野貴幸
コロナ禍で学び、成長した性と性教育の話です。
あなたが性教育に興味を持ったきっかけを教えてください!




8月5日(土) 13:00~15:00 302号室
合言葉は「私も OK、あなたも OK」☆
性の健康エイズナビ
性教育の重要性、健康や権利のことを一緒に考えましょう。
日々の性教育実践やその他の活動に新しい引き出しを!




8月5日(土) 10:00~12:00 303号室
HIV と妊産婦への切れ目のない支援
講師 東京女子医科大学産科教授 水田川 純 先生
AIDS ネットワーク横浜
今年も、HIV 感染だけでなく、産む不安やストレスを強く抱える妊産婦への支援を考えます。

8月5日(土) 13:00~15:00 303号室
コロナを乗り越えながら ~新しい交流と信頼~
特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいるサポートセンター
世界で広域を結ぶ新しい新型コロナ感染症
世界の人々とはどのようにコロナ禍を乗り越えてきたのでしょうか?



8月5日(土) 10:00~11:30 304号室
若者と関わる人に知ってほしい学び方の多様性
一般社団法人 日本心理療法協会 代表理事 椎名純一
多様化している若者の価値観・学び方・大卒などの伝え方。若者を動かす伝え方や馴染みやすい学び
方を紹介



8月5日(土) 15:30~17:30 2F ホール+YouTube 配信
男子のリプロダクティブヘルス・ライツとは
星野貴幸 前田正芳 土城紗樹 岩室神也
日本ではリプロダクティブヘルス・ライツは「女性」を
対象としたものと考えられてきた社会を再考します。




8月5日(土) 10:00~11:30 305号室
ウイルス母子感染! ~正しくこわがって正しく防ごう~
厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染者の妊婦・出産・子育てに関するコホー
ト調査を含む疫学研究と 情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研
究」 喜多恵
コロナ、HPV、そして HIV。赤ちゃん産める? 感染に罹らるか? ここで一緒に語り合います。

8月5日(土) 15:30~17:30 302号室
ハビママー・カープロジェクト夜職ライブハック&つながりづくり
ハビママー・カープロジェクト
コロナ禍に夜職のひとと職生活支援として発足したハビママー・カープロジェクトの活動報告とつなが
りづくり

8月5日(土) 12:20~12:50 展示場
すきま講座 ②
山田雅子 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員) 短時間で振り返る HIV/AIDS の基礎

8月5日(土) 15:30~17:30 303号室
みんなで考えてつくろう! かながわの性教育 MAP
性教育かながわフォーラム「せいせい」
みんなで情報交換をしながら、性教育地図を描いてみませんか?
最終にみんなで性教育宣言をしてみよう!



8月6日(日) プログラム

8月6日(日) 10:00~12:00 2F ホール+YouTube 配信
感染症、射精道、コンドームの達人が語る性
 岩田健太郎 (神戸大学感染症内科) 今井祥 (加藤病態研究プログラムセンター) 新井神也 (ヘルスプロモーション推進センター)
 AIDS文化フォーラム in 横浜では、これまでも様々な観点で「性」と向き合い続けてきました。このセッションでは「感染症」の第一人者と、「射精道」の著者と、コンドームの達人が「性」を語り上げます。

8月6日(日) 13:00~15:00 2F ホール+YouTube 配信
もうすぐ死に逝く私から いまを生きる君たちへ
 横須賀先生 水原輝 (水原青少年国際研究財団)
 重篤的な病状の中で伝えたメッセージは何か。講演と共に、長年の友人でもあるAIDSフォーラム in 横浜の運営委員の岩田神也とのトークセッションにご期待。

8月6日(日) 10:00~12:00 301号室
私たちは必ず回復する
 NA 南陽薬エスア
 ナルコティクスアノニマスは薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

8月6日(日) 13:00~15:00 301号室
子どもたちが安心して暮らせる社会をつくるために
 講師: ショナース (大塚潤枝) さん (助産師・性教育 YouTuber)
 横浜 AIDS 市民活動センター
 性の知識を子ども達にどう伝えるか、安心して暮らせてもらえる大人になるにはどんな姿勢が大切かを考えます

8月6日(日) 10:00~12:00 302号室
5年で急上昇?女性向け風俗の現場から
 SP/White
 最近よく耳にする女性向け風俗。どんな人が利用するの?女性は何を求めているの?現場の声を聞きます。 **【R18】**

8月6日(日) 13:00~15:00 302号室
何で忘れられるのか? ~葉書エイズの活動の歩みから~
 葉書エイズを考える山の手の会
 葉書エイズ被害者と共に葉書エイズの活動の歩みを振り返る

8月6日(日) 10:00~12:00 303号室
HIV 感染症と歯科 ー国際協力を通して見えてきたもの
 神奈川歯科大学
 HIV 感染症は HIV 薬の進歩により今や慢性疾患の一つになりました。しかし HIV 陽性者に対する差別や偏見は解消されず、歯科でも診断可否や適切な感染対策など不適切な対応事例があります。今回、ベトナム国ホーチミン市での私たちの活動を紹介しながら、神奈川県での取り組みや歯科の課題についてお話しします。

8月6日(日) 13:00~15:00 304号室
性的同意を文化に2 ~みんなで考えたい「性的同意」~
 上智大学エンパワーメントサークル Speak Up Sophia
 私たちがなぜ性的同意を文化にしようと思ったのか?性的同意について一緒に考えてみませんか。

8月6日(日) 10:00~12:00 305号室
ジェンダーを学ぶって? ジェンカレ1期生の本音トーク
 ジェンカレ ゼミ生1期有志
 ジェンカレはジェンダーを包括的に学び、一歩踏み出す場。そこで得たこととその後の活動について報告が盛りです。 **ジェンカレ**

8月6日(日) 13:00~15:00 305号室
地域密着型 CSE 未来会議 powered By カワセク
 カワセク 【かわさき包括的セクシュアリティ教育ネットワーク Coznology (セクソロジー)】
 多職種で包括的性教育(CSE)を盛り上げるために、多様な職種・世代・地域の立場でアイデアを出し合います。

8月6日(日) 12:20~12:50 303号室
すきま講座 ③
 山田博子 (AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員) 知照室で語り語る HIV/AIDS の基礎

8月6日(日) 15:10~16:00 2F ホール+YouTube 配信
広がる AIDS 文化フォーラム
 ー陸前浜田、横浜、名古屋、京都、佐賀ー

 1994年、エイズ国際会議を開催にはじまった、市民による市民のための AIDS 文化フォーラム。多くの人に受け入れられ、全国につながりました。
 今年はどれだけ多くの人と LIVE でつながれるか、今から楽しみです。

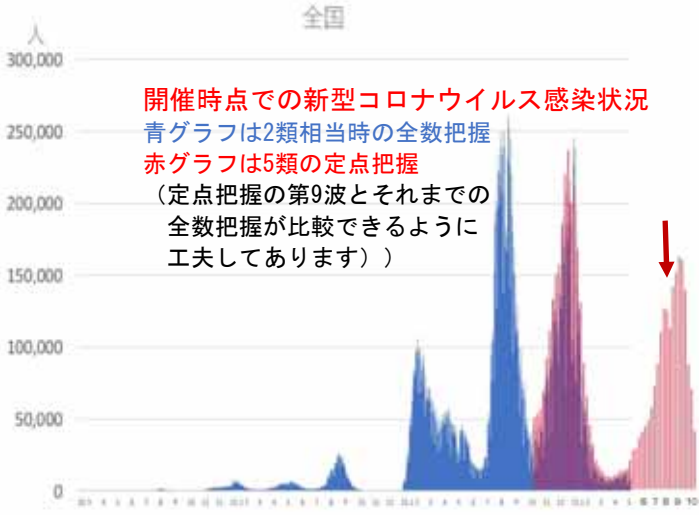
PWA・Hセクシュアリティ・LGBT・性 文化 国際 保健・医療・福祉 教育 若者・ネット つながり 薬物 被害・人権・ノーマライゼーション

展示出展団体 (50音順)

- ◇アジアの女性と子どもネットワーク ◇カトリック中央協議会 HIV/AIDSデスク ◇神奈川県ユニセフ協会
- ◇「極私的梅毒展」コケ丸 ◇ジェクス株式会社 ◇性の健康イニシアチブ ◇ナルコティクスアノニマス
- ◇日本 HIV 情報センター (JHIC) ◇横浜市青少年育成センター ◇横浜 AIDS 市民活動センター
- ◇横浜雙葉中学高等学校 茶道部

定着した感染経路対策

新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類になったとはいえ、開催時期が結果的に新型コロナウイルス感染拡大の第9波のピークの頃でした。一方でイベント会場での感染経路対策で必要なことが明らかになりましたので、その方向で対策を徹底しました。一番重要であるエアロゾル対策は、空気の流れの創出とエアロゾルの拡散が重要であり、前年度にホールの空気の流れと排気の状態を確認していたため、ステージ上の空気の流れの創出と攪拌のため、サーキュレーターの使用を徹底しました (p16参照)。飛沫対策は飛沫が目目の前の人の顔に飛ばないように、距離と角度に注意する必要性をその都度確認しました。その結果、ホールのステージでの登壇者は全員マスクなしで登壇し、アクリル板は使いませんでした。



開会式・組織委員長あいさつ

AIDS文化フォーラムin横浜第30回目は、昨年に続いて神奈川県民センターで開催となりました。今年度はホールでの展示も再開できました。運営委員の皆さんを中心に「今も以前も変わらないもの」、「今の時代に沿ったもの」、「今の時代だからこそ必要なもの」、そして「未来のための今すべきこと」など、多様な視点から進化し続けるプログラムが多彩に用意されています。今年も日本各地からまた世界中からアクセスくださる方々、皆様に特別な文化フォーラムをお届けできるものと思っております。会場の皆様、ご覧の皆様、今年も多くの皆様の力の結集したフォーラムをぜひお楽しみください。

さて、人間は本来、多様性を尊重する社会にいて、自分にないものを持つ他者に出会うことによって経験と知識が増え、自分なりに吸収して解釈することで全人的な成長をしていくものです。子どもたちへの教育も「違いを認め共に生きる」ことができるような多様な価値観に触れることが大切といえます。このAIDS文化フォーラムは当初より、医療だけの問題として捉えるのではなく、広く文化の問題として捉えることに重きを置いてきました。今、社会が大きく変容する中で、文化もさまざまに変化しつつあります。文化にはおそらく、変わらずに残るもの、変化しながら受け継がれていくもの、繰り返されるもの、新しく生まれるもの、使命を果たし消えていくものがあり、これらが混ざって文化は作り上げられ、変容しながら続いていくのだと思います。そういった意味でも、今回のフォーラムのメインテーマである「未来をみつめて」はHIV/AIDSだけでなく、感染症、人、宗教、社会などを取り巻く文化に着目して構成されています。こんな時だからこそ、文化を発信し続けるフォーラムの存在が重要と考えます。

30年前を振り返り、あの時のあれが今につながったというように、何十年後かの未来に今日からの3日間も多様な発表、メッセージに触れ、新たな文化創造の一員であることをお一人おひとりが実感されることを願っています。

なお、この開催に向けて多くの方々のご協力と参画があったことを申し加えます。ことに、協賛、助成、ご寄付をお寄せいただきました企業、団体、個人の皆様に心より感謝申し上げます。

ご出演、ご出講いただく皆様、ご準備ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

あわせて、フォーラムの代名詞ともいべき単語に「手弁当」という言葉があります。もう一般的ではない単語かもしれませんが、本当にフォーラムに集う多くの団体、個人、企業の方々の手弁当で作ってきました。フォーラムの趣旨に賛同し、関わってくださる皆様の高い志に敬意を表するとともに心から感謝申し上げます。特に、この企画の中心となった岩室先生はじめ運営委員の皆様組織委員会を代表して心から感謝申し上げます。そして、今日運営に携わるスタッフ、ボランティアすべての皆様ありがとうございます。

参加される皆様もぜひ「参加者」から、ともにこのAIDS文化フォーラム in 横浜をつくっていく「文化の発信者」になっていただければうれしく思います。

組織委員長 佐竹博



オープニング

未来を見つめて

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：後藤智己（社会福祉法人はばたき福祉事業団）北山翔子（「神様がくれたHIV」著者）
奥井裕斗（HIVと共に生きる会社員）白阪琢磨（エイズ予防財団）

司会：岩室紳也（AIDS文化フォーラム in 横浜）



1994年8月に開催された国際エイズ会議と並行して開催された市民による、市民のためのAIDS文化フォーラム in 横浜。30周年を迎えた今回、「未来をみつめて」という視点で皆様と考えたいと思い、このセッションが企画された。

内容: ◆後藤智己:治療法がなかった当初はそもそもこの病気と向き合いたくないという思いだった。薬害エイズ当事者だったので診療も大学病院で受けるしかないような状況になった。障害者認定の際に、同じウイルスに感染している者として、いいエイズ(薬害)、悪いエイズ(性感染)という意識は少なくとも私にはなかった。

◆北山翔子:1996年にHIVが増えていると言われていた海外でパートナーから感染したが、好きになったパートナーが感染しているとは思えなかった。帰国したもの、薬もない時代でしたが、異性愛者での感染もあることは訴えていた。感染していない自分と違うから避けようという意識は30年前から変わっていないのでは。

◆奥井裕斗:2016年にHIV感染が判明。ゲイコミュニティにいたのでHIVの情報は入っていたが、他人ごとだったのは実際に感染した人の姿が思い浮かべられず、他の世界の話とってしまった。一方でゲイの一人として薬害の人たちが「同じ感染者だから」と言ってくれたことが支えになった。HIV/AIDSのスティグマが原因で亡くなる人がいる中で「いまはHIV/AIDSでは死にません」というメッセージに違和感がある。感染して2年目ぐらいにAIDS文化フォーラム in 横浜に参加した時にすごく緊張していたのを覚えている。今回参加したのはMSM以外の感染経路の人と会えるから。

◆白阪琢磨:1988年に世界で最初の抗HIV薬(AZT)を開発した満屋裕明先生のもとでウイルスの研究をしていた。その時の夏休みのバーベキューで出会ったアメリカ人に自己紹介をしたら、「お前、偉いな」と感動して聞いてくれたのに対して、日本でそのような反応を受けたことはなかった。1997年から日本でHIV/AIDSの患者の診療に従事。これからは独居を含め様々なHIV陽性者の社会福祉施設での受け入れがスムーズに行かない現状への危機感がある。

参加者の感想:

- エイズの歴史とそれぞれ複数の違った当事者としてのお話が、深く考えさせられるものばかりでした。医療は進歩していても、アップデート出来ていない他人事な社会に対して、自分の立場からどのようにアプローチしていくことが出来るのか、考え続けていきたいと思えます。(40代、教育関係、神奈川県)
- 法整備が進むなど良い方向に向かっているように見えても、実際にLGBTQ差別に苦しむ方々の力になっていないのに、形だけ作ることで安心しきっているのでは?というのは強く感じます。どちらも偏見や固定観念により根強い問題がたくさんありますが、「受け入れる」という認識ではなく、一人ひとり違って当たり前だから、というくらいになるよう少しずつ私たちが考え続けなければならないなと思いました。(30代、保健・医療・福祉関係、東京都)
- 当事者の方のリアルなお話を交えた歴史の振り返りで、これからの未来に向けて何ができるのか、自分の知識を深めることができました。(50代、保健・医療・福祉関係、愛知県)
- 個別施策層という言葉を知った。AIDS当事者の方から見たAIDS文化フォーラムのあり方の意見がとても貴重だった。「芋づる式に知り合える」という言葉がとても心に残っていて、今後も自分の中で芋づるの伸ばしをしながら、仲間を増やしたいなと思った。(20代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)
- お話の進め方が素晴らしく、肩肘張らずに聞けました。来場してよかったと心から思いました。エイズの話も減り、こんなに進んでいたのかと恥ずかしくなりました。(50代、保健・医療・福祉関係、神奈川県)
- HIV・AIDSの歴史を改めて振り返ることはできた。それぞれの立場で述べてくれた発信が新たな視点を教えてくれ、狭い視野で過ごしていた自分に風穴を開けてくれました。追い込まれていくと誰ともつながることをせず、うちにこもってしまうお話がありましたがつながりを閉ざさない社会を目指すためには、自分の力ではどうにもできないその時の環境(医学など専門的なことだけでなく世の中の状況まで)の中で、正しい知識で基本を忘れずに冷静に考えていくことが大切だと思いました。当事者お三方の現実を受け止めながら歩んできた(今もこれからも)お話を聞かせていただいたことに、改めて感謝申し上げます。(40代、教育関係、東京都)

プログラム

多様性と文化 2

～多様性は理解できるもの？ 分かち合うもの？～

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：かずえちゃん (YouTuber) ナナさん コンドームの達人



内容: 男が男を好きだと言っただけではいけないと思って育ったかずえちゃん。今は同性婚を認めている台湾に在住。LGBTという言葉の認知は広がってきたが、当事者が生きやすい社会になったかと言うところではない。ゲイが当たり前のドイツの学校に在籍していたナナさん。カミングアウトは決して強要されることではないが、カミングアウトをすることで周囲の対応が変わることも。自分自身が発達障がい、自閉症であれば、自分のためにカミングアウトをすることは何ら問題はないが、こと子どものことになると、周囲が知ることで対応が円滑になる場合もあるが、本人にとってどうなのかを悩んでしまう。自分の中の「常識」をマジョリティと思い、自分なりの「正解」を信じ、考えることを放棄している社会があるのでは。性被害に遭った人に対して「あなたは絶対悪くない」と言える、一人ひとりが安心して自分の生き方を選択できる社会になって欲しい。

参加者の感想:

- 多様性というテーマにも沿っているし、若いというか、等身大のような印象を受けた。(40代、兵庫県)
- どんな問題も悩むことは同じで、それぞれを分けて考える事ないなって思いました。(50代、専業主婦、神奈川県)
- LGBT理解推進法の問題点について詳しく聞けて良かった。認知は上がってきても当事者が生活しやすくなったわけでない。学校ではことに健康診断ではあらかじめ男女別名票を使用し会場や時には時程まで性別で設定することも当然のように実施している。トランスの子供たちは2, 3歳のころからすでにこれらについて違和感を感じているとすれば、学校でこのような方法を続ける限り、学齢期には毎年生きづらさを強要され我慢させられるだけでなく、他の子どもたちに無意識の偏見を与えていることになると思った。(40代、教育関係、東京都)

連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

ドキュメンタリー映画『カミングアウトジャーニー』上映会 +俳優本人出演トークライブ!

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

出演：福正大輔 (公認心理師・ASK認定依存症予防教育アドバイザー、俳優)

内容: 舞台演出家・福正大輔さんによる、友人、職場、家族へのカミングアウトを追ったドキュメンタリー映画の上映を行いました。さらにスマートフォンを使ったリアルタイム投票システムを用いた質問タイムでは多くの質問が寄せられ、福正さん自身が包み隠さず答える本音トークが展開されました。ここでは何でも話していい、という福正さんの軽快なMCに、来場者からも依存・HIV・子育てなどリアルなカミングアウトが飛び出す涙あり・笑いありの温かな空気に包まれました。



参加者の感想:

- 映画の後のトークがとても良かったです。初めてきくことばかりで驚きでした。(50代 保健・医療・福祉関係 神奈川県)



- 福正さんがカミングアウトをしていく相手である友人・同僚・上司・恩師・お母さま、その方たちがそれぞれとても魅力あふれる方たちだと感じました。福正さんが薬物依存の友人に対して感じたという「この人、薬物がなかったら生きられていなかったら」という言葉が深く刺さりました。

連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

授業の中での「同意」の気づき 心地よい心とからだとのつきあい方

主催：助産師 有馬祐子(日本思春期学会理事・日本思春期学会性教育認定講師・大学等非常勤講師)

内容: 教員が「生徒や学生が安心して教室にいられる環境」を支える大切さについてお話をしました。「教員が指名し、生徒が発言をする」この関係性に、生徒の中には苦痛を感じる状況もあると思います。もしかしたら、「当てる」という行為は、生徒の心を深く傷つける行為となるかもしれません。学ぶ環境は、安心できる空間であってほしいものです。教員・外部講師は、生徒の「心模様に寄りそう」心がけを持ち、「生徒が今はパスしたい気持ちを持つこともある」と配慮する必要があると思います。

参加者の感想:

- 本当の意味で、同意をとる、ということがどんなことなのかを考えさせられる講座でした。有馬先生が経験されたエピソードひとつひとつが聴いている側にすとんと落ち、実感として学ぶことが出来ました。講座後半での質疑応答も学びが深まって大変勉強になりました。ありがとうございました。(40代・教育関係)
- たくさんの気づきをいただきました。また、お話を聞きたいと思いました。ありがとうございます。(50代・保健・医療・福祉関係)



連絡先: 助産師 有馬祐子 TEL:080(9527)7964 E-mail: shishunki.arima.gmail.com

URL: <https://www.midwifemap.com/mysite/92yamw/staff/>

違法薬物の未来をみつめて

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：松本俊彦（精神科医）ピースさん（医師）塚本堅一（元NHKアナウンサー）

風間暁（保護司、NPO法人アスク社会対策部薬物担当、薬物依存症当事者）

岩室紳也（HIV診療医）

内容: 他者ではなく自分の体を傷つけることが刑罰の対象になるのか。捕まった人たちに対する厳罰化は、刑罰だけではなく捕まった当事者の社会復帰の障壁になっている。一方でフォーラムをきっかけに塚本+風間のペアでの講演依頼が増え、当事者の人生経験を伝えることで、人生をしんどいと感じている生徒のところに響いていると感じている。

参加者の感想:

- 「ダメ絶対」は本当に意味のないことで、社会全体で変わっていかねばならないと改めて感じました。(20代、教育関係、神奈川県)
- とにかく、すごく応援されている気持ちになりました。1人で頑張っている生きていない。みんなでこの社会と向き合っていると感じました。あと自分にたくさんのスティグマがあることに気づかされたし、そのスティグマのために、意外とストレスで生きていることに気づきました。(40代、NPO/NGO、東京都)
- 登壇回数を重ねる毎に、ピースさんの表情がほぐれて、たくさんお話されるようになってきた姿が印象に残りました。知れば知るほど、日本社会の枠組みが厳しくて思考停止しているように感じます。自分が出来ることは何だろうと思いつながら、それでも関係性を構築しながら、お互い様なゆるい繋がりを作っていけるような、社会にいたい大人でありたいと思いました。(40代、教育関係、神奈川県)
- 未だに「子ども達に薬物教えるな」という大人達が居る中での活動している私にとって、目から鱗が落ちました。来て良かったです。(50代、専業主婦、神奈川県)
- 会場で参加しました。オンラインも便利ですが、個人的にはやはりリアルの方が、会場全体や講師の方々の雰囲気や伝わるのでいいです。(50代、教育関係、神奈川県)



連絡先: AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

誰もがみんなマイノリティ

主催：横浜YMCA 国際・地域事業

世界120の国と地域に広がるYMCAは、平和で差別や貧困のない世界を目指して活動しています。



内容：講師の岡笑叶さん(株式会社ファーストペンギン代表)は、小学生の頃から自分の性別違和を感じ、中学ではトイレや更衣室・制服のスカートを履くことに違和感を持ち、悩むことが多かったものの、部活動の顧問や校長先生の理解もあり、校則が変わったことでズボンを履いて登校できるようになりました。高校ではクラスメイトにカミングアウトすることを決意。想像していた反応とは全く違い、前向きな言葉や「実は自分も…」と話してくれる友人もいたことで、自分のためにしたことが誰かのためになっていると感じたそうです。また、大学入学に際し「学生証の性別表記の有無」「英語の授業での代名詞(she/he)」等、トランスジェンダー当事者として気になる点を大学側に確認すると、大学側も柔軟に対応してくれたことで、時代は変化していると感じたエピソードを紹介してくれました。講義の後半には「身近な人からカミングアウトされたらどうするか」というテーマで意見交換を行いました。友人や職場の人からカミングアウトされた場合には「自分を信用してくれていると感じられて嬉しい」「話してくれてありがとう」と感じる一方で、家族からカミングアウトされた場合は「身近な存在だからこそ受け止めることが難しい」「気づいてあげられなくて申し訳ない」と感じてしまうという意見が寄せられました。そうした意見を受け、カミングアウトを受け止めることは、その人にとって安心して過ごせる環境を築く第一歩になり、心理的支えにもなるといっていました。また、日本で左利きの人は約9.5%、AB型の人が約10%で「マイノリティ」であるように、誰もが何かの「マイノリティ」である。「LGBTQ」という言葉がなくなり、誰もが互いの多様性を受け入れることができるような世の中になってほしいという強い想いとメッセージを伝えてくださいました。

参加者の感想：

- トランスジェンダーの表面的な知識しか持っていなかった私に、当事者の方が実際に直面する問題や苦悩、喜びを直接話して下さったことに感謝しました。(70代)
- すごくたくさんの気づきと経験をお話して下さりありがとうございました。(20代・保健・医療・福祉関係)
- 講義はもちろん、参加者の皆さんとも交流ができてとても良かったです。(50代・保健・医療・福祉関係)

連絡先：横浜YMCA 国際・地域事業 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 TEL:045-662-3721 FAX:045-651-0169
E-mail:kokusai@yokohamaymca.org URL:http://www.yokohamaymca.org/

HIV/AIDSの基礎講座

主催：山田雅子

内容：すきまミニ講座で解説している内容をもう少し掘り下げて、最近のAIDSを取り巻く状況などを中心にお話ししました。初めて参加される方やHIV/AIDSについて知りたいという方に向けた講座です。

昨年に引き続き、筋肉内注射による中長期的薬物投与が可能になり、毎日の服薬管理をしなくてもよい場合があること、それは高齢の方、施設などで他者に服薬管理を委ねなくてはならない方にとって、負担軽減につながっていること、一方で注射による副作用も観察、管理が必要なためすべての方に朗報とはなりませんが、選択肢が増えるということが何より大事だと考えることを会場の方と共有しました。

またU=U(検出限界未満であれば他者に感染しない)というメッセージは陽性者の方への偏見を取り払うために効果はありますが、それだけですべての課題が解決する訳ではないため、私たちはこれからも事実を見つめ互いを労わり合ってよりよい道を模索し続ける必要があるのではないのでしょうか。



参加者の感想：

- 治療について薬が大きく進歩しましたがそれでも陽性者の方が背負うものが大きい病気であると感じました。
- 筋肉内注射の認可によって内服管理から解放され心理的に軽くなった人もいて、選択肢が増えるのはとてもよいことだと思いました。
- HIV/AIDSの治療は進歩し続けている。当事者と保健医療福祉チームが協力し支えている病気だと改めて感じる事ができた。

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

お坊さんが行う性教育授業ver.11

LGBTQフレンドリーな葬送の実現に向けて

主催：古川潤哉（浄土真宗本願寺派 浄誓寺 僧侶）

登壇：石原千晶（供養のカタチ 代表）

内容：古川より、佐賀県の公立中学・高校などで取り組む「生と性と死を考える」性教育を通し、悩みや失敗を抱えて生きることを応援する、道徳とは違う宗教の切り口を紹介。後半は葬送とお墓の在り方について、特に、石原よりセクシュアルマイノリティが直面する終末医療、葬送、埋葬についての具体的な課題と取り組みを紹介。実のところ、セクシュアリティに関わらず一人一人が考えなくてはならない大切な内容の共有となった。

YouTubeアーカイブ <https://www.youtube.com/watch?v=KyAizpPoS8o> →



連絡先：古川潤哉 E-mail: junya@joseiji.org URL: <http://furujun.info>

石原千晶 供養のカタチ <https://ohaka.net/>



ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり

登壇：戸羽太（（株）オフィスTOBA：前陸前高田市市長）

佐々木亮平（陸前高田市はまかだ運動推進アドバイザー、岩手医科大学）

岩室紳也（陸前高田市ノーマライゼーション大使）

内容：HIV/AIDSとコンドームと東日本大震災をきっかけにつながった3人。戸羽さんは米国滞在時に障がい者、がん患者が事実を受け入れるだけではなく、明るく生きていることを経験。陸前高田市市長になってからノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりを推進してきた。障がいは「その人が苦手なこと」でもある一方で大事なことは一人ひとりが自分で選択ができること。そのためにもいろんな人がつながり、対話をし、お互いを認め、自分ごととして一人ひとりが考えられる、楽しい社会をみんなで目指したいことを確認し合ったトークタイム。

参加者の感想：

- 非常時に大切だと思った事は、本来いつでも大切なこと。「ノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくり」に込められた想いが伝わりました。（30代、保健・医療・福祉関係、岩手県）
- 人と人をつなぐために自分ができることを考えていきたい。（50代、保健・医療・福祉関係、千葉県）
- 福祉とは何か？を考えさせられた。（50代、保健・医療・福祉関係、神奈川県）
- 「バリアバリュー=障害を価値に変える」「不自由ではなくて苦手なだけ」という考えはとても新しい発想でした。そう考える事で、不必要に意識しすぎることなく、そこで初めて障がいのない方と同じように接する事ができると思いました。私は今、「複合的マイノリティや生きづらさを抱える人が自分のペースで自分の個性を活かして生きたいと思える場を作りたい」という想いで活動しています。「社会問題を解決したい、誰もが生きたいと思える場をつくりたい」と思う中で、「原因は何なのか、何を改善していくべきなのか」と難しい事ばかりを考えていましたが、今回のお話を聞いて「人とつながること」の大切さを実感すると共に、それなら今の私にもできるかもしれないと思えました。（10代、学生、秋田県）



連絡先：ヘルスプロモーション推進センター URL: <https://iwamuro.jp/>

看護師からの性教育 ～性教育を語ろうよ～

主催：星野貴泰

手術室看護師として働きながら中学校・高校で性教育講演をしています。

内容：群馬県で性教育講演をしている自分の12年間の講演活動の実績報告をしました。講演活動を続ける中で生徒たちの反応はどう変化してきたか、そしてコロナ禍を経て星野貴泰の性教育はどう変化したかをお話しました。来場者の方の「あなたが性教育に興味を持ったきっかけ」も紹介し、参加者同士のシェアも行いました。

参加者の「性教育に興味を持ったきっかけ」を一部紹介。

「自分が性の問題を抱えたとき、自分たちが持っている知識がすごく少ないことを実感しました。その時からです」



参加者の感想

「星野さんの性教育講演で大切にしている点やエピソードを詳しく聞けて、大変勉強になりました。普段の講演で苦労されていることや、対処の方法、コロナを経て変わっていったポイント等、アクシデントに学ばれる姿勢が誠実に感じました。性教育に関わる様々な人たちを上手に巻き込んで繋いでいく姿勢も、大変勉強になりました。私も出来ることから、出来る場所で、少しずつ取り組んでいきたいと思える時間でした。」

連絡先：星野貴泰 E-mail:tkstarys.lovelives@gmail.com URL:tkstarys.com

HIVと妊産婦への切れ目のない支援

主催：認定NPO法人 AIDSネットワーク横浜

講師：水主川純（東京女子医科大学 産婦人科教授）

1993年設立。電話相談、出前講座、イベント開催など、広く一般市民に対してHIV、AIDSの啓発、相談活動を展開。文化フォーラムには1回目から参加。

内容：水主川(かこがわ)先生は、浜松医大、国立国際医療研究センター、聖マリアンナ医大を経て、現在は、東京女子医大で産科の教授をなさっています。分娩や妊婦健診にあたるだけでなく、以前から「飛び込み分娩」や「未受診妊婦」、「望まない妊娠」等の社会問題の解決や啓発に力を入れておられて、かつてはテレビにも出演なさっていました。今回も、軽妙な話しぶりで、易しくお話をされました。

妊婦検査、HIV感染妊婦の状況、出産方法、施術体制など、現場の対応を交えて展開され、さらに望まない妊娠、飛び込み分娩、育児放棄などの話もありました。

ただ、今回は会場が階の端で狭く、機材を置くと、客を十分入れられない状況で、扉を開けて中を覗いて、お入りにならない方が複数いらっしゃいました。来年度は会場の配慮をお願いしたいと思います。

聴講者感想に「HIVだけでなく、近年流行している梅毒についても学ぶことができた。東京都の実情も合わせて勉強になった。」とあるように、現場の実情を知り、視野を広く持てる講演でありました。

連絡先：認定NPO法人AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39尾上町ビル9階横浜市民活動センター内

TEL:045-201-8808 FAX:045-201-8809 E-mail:any@netpro.ne.jp URL:http://www.netpro.ne.jp/~any/



若者と関わる人に知ってほしい学び方の多様性

主催：一般社団法人 日本心理療法協会 代表理事 椎名雄一

心理カウンセラーの養成と研究を主な活動としています。特に中高生の不登校問題、若者支援をしています。

内容：学び方の多様性について講演をさせていただきました。効果的な学びの特徴に以下のものがあり、それを実装できている学びとそうでない学びでは子どもたちの学習意欲、主体性などに大きな違いがあるという内容です。

「知りたい」「やってみよう」と関連のない学びは学習効果が著しく下がる。同様に「やってみよう」学びであれば学んだ直後に実践をするが、実践の場がなかったり、テストが目的になっているものは学習効果が下がる。最近では「教わるのは嫌い。自分で学ぶ方が良い。」という学生も多いが、「やってみよう」と思った時にネットなどで簡潔に学び、すぐに「やってみよう」というスタイルは動機づけも実践もない学校の学びよりも効果を出している場合が増えてきている。



参加者の感想：

- 来場者は中高生の保護者が多くいましたが、既存の全日制で子供が学ぶのを嫌がるケースが話題になりました。「自主的に学ぶのは認められず不登校と言われ、受け身で教室にいると出席になるのはおかしい」「時代に合わない授業のために人生の20年近くを無駄にしたくない」などの声が聞かれました。
- 通信制高校などが新しい試みをする中でより良い教育環境ができれば良いなと感じました。

連絡先：一般社団法人 日本心理療法協会 〒194-0013 町田市原町田4-1-10 フジモビル4F

ウイルス母子感染！～正しくこわがって正しく防ごう～

主催：厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関するコホート調査を含む疫学研究と情報の普及啓発方法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化のための研究」班（班長：喜多恒和）

喜多班の中の「国民への HIV 感染妊娠に関する情報の普及啓発」活動の一環として行われた。

内容：キャッチフレーズとして「コロナ、HPV、そしてHIV。赤ちゃん産める？普通に暮らせる？ここで一緒に語りあいましょ」とした。当日は研究班に所属するメンバー4名が下記内容でウイルスや性感染症について説明し、各々質疑応答を受けた。

1. HPVウイルスによる疾患、母子感染の有無について（防衛医大産科婦人科医師 高野政志さん）
2. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の概要と分娩様式、HIVウイルスとの比較を含めて（神戸大学産科婦人科医師 出口雅士さん）
3. 性感染症の総論（山梨県立北病院看護師 廣瀬紀子さん）
4. 性感染症の各論、HIVウイルスを含めて（九州医療センター看護師 長與由紀子さん）

参加者の多くが医療関係者、またはボランティアで会場運営に参加している大学生であったと思われる。プレゼンテーション後の質疑応答に関しては、HIV感染妊婦から生まれた子供のケアの問題や、告知についての実際の対応や、諸外国では経膈分娩が主流になっている昨今、本邦における周産期医療の現場でどのような状況判断から、帝王切開がなされているのかについても、活発に議論がなされた。病院における一般的な手術前検査としてのHIVスクリーニング検査のあり方や、妊娠中期・後期に検査をすべきか否かについてなども議題にあがり、非常に活発、かつ実際に臨床現場に即した討論ができ、発表者としてもとても多くのことを学ぶことができた。今年度末の研究班の報告書（適宜、上記URLで掲示）として下記HPへ報告予定です。

連絡先：奈良県総合医療センター（班長所属）

〒630-8581 奈良市七条西町2丁目897-5

TEL:0742-46-6001 FAX:0742-46-6011 URL(喜多班) : <http://www.hivboshi.org/>



宗教とAIDS Part18 宗教とAIDS 未来を考えるための宗教

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：水上健次（カトリック逗子教会 主任司祭）古川潤哉（浄土真宗本願寺派浄誓寺僧侶）

平良愛香（日本基督教団川和教会牧師、カトリックHIV/AIDSデスク委員）岩室紳也（運営委員会）

内容：カトリック新聞記事参照 (p29)

参加者の感想：

- 私が普段から違和感を感じていることについて宗教家の方にも同じように思っている方がいるという事実に救われました。全てを理解できるという考え方自体が傲慢というか分をわきまえていない考え方ですね。考え続けることを通して答えのない問いに挑んでいきたいです。(30代、教育関係、神奈川県)
- 初めての参加でした。どんな内容なのか興味津々でしたが物事を考える全ての核みたいなものを感じることができたように思います。視聴できてよかったです。(50代、神奈川県)
- 1つのテーマについて、異なる宗教の方のお話を聞くことができ、とても勉強になりました。特に、「救いを求めてはいけないという風潮がある」「どこに助けを求めれば良いのか分からない」というお話は今の日本(特に子どもたち)の核心をついていて感じました。学校の先生や幼なじみ、両親、その他大勢の方に支えられて「救いを求めても良いんだ」と思えるようになってきた気がしています。今回のお話でも、それを改めて実感しました。
死にたい子どもたちへのメッセージとして水上さんのおっしゃった「大人になりなさい」という一言について、初めは反抗心を抱きました(笑)。しかし、後の平良さんと古川さんのお話を聞き、もう一度「大人になりなさい」の意味を考えるとものすごく納得がいききました。古川さんのおっしゃった「つらいことは永遠に続くと考えてしまうけれど、永遠に続くことはない」という言葉を聞いた時、自分の心の内を見透かされたように感じました。平良さんの「そういう考えもあるよね～」といった良い意味での緩さが本当に見習うべきだと感じました。(10代、学生、秋田県)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

合言葉は「私もOK、あなたもOK」☆

主催：性の健康イニシアチブ

人文社会科学の視点から「性の健康と権利」について追究する民間団体

内容：前半のキーノートトーク(基本情報の講義)では、①日本の性教育の歴史(最近30年)、②包括的セクシュアリティ教育と国際セクシュアリティ教育ガイダンスについて、③知っておいてほしい重要ワードについて、を伝えました。

後半のグループワークでは、キーノートトークの内容をさらに深く理解するために、①こんな性教育は嫌だった！(経験をシェアする)、②何があれば良い性教育になった？(キーノートトークに出てきた「包括的セクシュアリティ教育の10の特徴」の何が必要だった?)というふたつの質問にグループメンバーで意見を出し合いました。

HPのブログに報告記事を載せました。⇒<https://sexualhealth-initiative.org/reportworkshop20230805>

参加者の感想：

- 色々な方の性教育の実践を学びたいと思い、講座に参加しました。日本の性教育の歴史や、国際ガイダンスの読み解き方について、改めて読み解くことが出来ました。講演をする際の工夫や、アイテムの使い方等、新しい発見がたくさんありました。ワークショップもあり、参加して良かったです。
- 題名が「わたしもOKあなたもOK」だったので、説明には包括的性教育について記されているものの、こんなにも、分解されているとは思わずに参加したので、予想以上に学びが多くて参加して本当によかった。



連絡先：性の健康イニシアチブ E-mail:hello@sexualhealth-initiative.org URL:<https://sexualhealth-initiative.org>

コロナを乗り越えながら ～新しい交流と信頼～

主催：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

神奈川県内の外国籍住民の住まいや生活などに関する相談を受けているNPO団体。さまざまな視点から多文化共生を考えたいとの思いで2015年度からAIDS文化フォーラムに参加している。

内容：世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症。コロナ禍を乗り越える過程で生まれた新しい交流とつながり、そして信頼関係について、スタッフやインターン生の経験談を共有した。

中国語スタッフから、中国でロックダウンが起きる中、同じ集合住宅に住む住民間の自発的な助け合いやボランティア活動について、また横浜中華街の飲食業の店主たちが飲食業から八百屋や魚屋などに転職し、たくましく生活している様子が共有された。

インターン生の韓国留学生は、コロナ禍で来日できず、韓国でオンライン授業を受け続けなければならなかった不安感や、オンラインだからこそ生まれた友人との出会いについて語ってくれた。また、当団体理事からは海外に暮らす友人医師の経験談等が語られ、そこから見えてくる共通点や違いについて、グループに分かれて意見交換を行った。

参加者の感想：

- ニュースで見聞きした海外のコロナ禍の様子と、実際の様子との違いを感じました。
- コロナ禍の時期に中華街で商売をしている人たちの様子やオンライン授業を受けていた留学生の話から、大変なことも多かったが、前向きに生きる姿や、コロナ禍で生まれた友人とのつながりについて知れて、明るい気持ちになった。
- 違いを持つ人々がたくさん暮らしていること、難しいことがあってもその中で前向きにたくましく生きていく姿を知れてよかった。



連絡先：特定非営利活動法人 かながわ外国人すまいサポートセンター

〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7 横浜YMCA 2階 TEL:045-228-1752 FAX:045-228-1768

E-mail:sumai.sc@sumasen.com URL:https://sumasen.com/

男子のリプロダクティブヘルス・ライツとは

主催：ヘルスプロモーション推進センター

登壇：星野貴泰（性教育を行う手術室の看護師）

土岐紗理（亀田総合病院泌尿器科）

柳田正芳（性の健康イニシアチブ）

岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）



内容：このタイトルとこのメンバーで集まったのは、実は同じ8月に日本思春期学会でシンポジウムを依頼されていたから。メンバーも当初は「男子の？」と思いつつ、それぞれの視点から考えを整理して見ると、男だから、女だからではなく、一人ひとりが、一人ひとりの考えに沿って、選択する権利があることを共通確認することができました。

参加者の感想：

- 自分だけでは気付けなかった視点をたくさん学ぶことが出来ました。男性の育児休暇取得が進まない背景には、SRHR(Sexual Reproductive Health and Rights)が女性中心であるという点や、学校における性教育が子どもの権利から外れてしまうような導きになる点など、なるほどと深く頷きながら聞かせていただきました。(40代、教育関係、神奈川県)
- 自尊心の育み方として何でもいいから自分の居心地が良い所があるというのは本当にその通りだと思います。心理的安全性の保たれてる環境でこそ本音が出ます。土岐先生が活動が認知されてから相談を受けられたように、アライである事を公言し少しでも相談される人になりたいと思いました。(30代、保健・医療・福祉関係、千葉県)
- どの人にも選択できる権利があることの大切さを改めて考えられたのと、男性側が思う子どもを作る、産ませるということについて、周りの男性と話をしてみたいと思いました。(30代、保健・医療・福祉関係、千葉県)
- いろいろと考えるきっかけができたのは、トークセッションの形式で、それぞれの立場からのお話が伺えたからだと思います。来年度もこのテーマでの続編を期待しています。(50代、教育関係、神奈川県)

連絡先：ヘルスプロモーション推進センター URL:https://iwamuro.jp/

ハピママメーカープロジェクト夜職ライフハック&つながりづくり

主催：ハピママメーカープロジェクト

埼玉県川口市を主にオフライン・オンラインで他県の方と連携しながら夜のお仕事をしているひとり親をサポートしています。

内容：コロナ禍で水商売や風俗で働く家庭に対し学校が休校になった家庭に向けての国からの休校給付金が不支給になるという差別的な扱いを受けました。(後日、無事給付されることになった)それを期に夜職をメインに経済的困窮にさらされるひとり親のサポートをするために団体が発足し、経済的困窮もさることながら社会的孤立を招かないために一人でも多くの理解者、または応援して下さる方と繋がることで夜のお仕事をする方が孤立しない環境を作っていきたいという思いで法律や生活相談、食支援、パソコン教室、こどものあそび場づくり、ボランティア同士の交流を作り、支援する側される側という関係にとどまらないお互い様の関係づくりをし様々な課題に一つ一つ向き合える人づくりをしているお話をしました。

今回参加していただいた方には医療・保健分野でお仕事をされる方、元夜のお仕事に携わっていた方、ひとり親家庭の友人を持つ方が参加して下さり、感想の中には「様々な課題が重ね合わさっていて、一つ一つ結び目を解すように活動をしていくしかないのかな…」と思わされた」と複雑な社会的状況を理解して頂くことができました。



連絡先：ハピママメーカープロジェクト URL:<https://expressyourself.jp/nightwork/>

みんなで考えてつくろう！かながわの性教育MAP

主催：人間と性教育研究協議会・神奈川性教育サークル「かながわサークルせいせい」

神奈川在住が中心ではありますが、県内外問わず、せいせいに興味関心がある・性教育でのつながりを求めている仲間たちで構成しています。

内容：当団体の紹介後、性教育をテーマにできること！やってみたい！つながりたい！を記載する自己紹介カードを作成し、それをもとに自己紹介をしました。次に、神奈川県「性に関する指導の手引き」を参照しながら、「生命の安全教育」「学習指導要領」の説明や、日本の性教育はなぜ進まないのか？という現状を学びあいました。グループ交流では、自分の地域や学んできた性教育、これからどんなことをやりたいのかななどを話したり、参加者配布用に準備していたコンドームを用いて正しいつけ方のレクチャーも行いました。

最後に、模造紙サイズの性教育MAPに、記載した性教育宣言カードと目印になるシールを自分の地域に貼り、完成の記念写真を撮影しました。少人数ではありましたが、講義・グループワーク・ワークショップ要素もあり、参加者と協働しながら、MAP作成に臨めました。高校生・大学生の参加が主だったので、世代を超えた意見交換は大変有意義な時間になりました。「今後、『性に関する指導の手引き』を活用した活動や、MAPの変化も楽しみ！」などの感想も聞かれました。初参加や認知度の低さもあり、期待していた人数よりも少ない参加ではありましたが、団体の活動として貴重な経験となりました。

連絡先：せいせい E-mail:seisaykanagawa@gmail.com

URL:<https://lit.link/seisaykanagawa>

Instagram:<https://www.instagram.com/seisaykanagawa/>

Twitter (X) :<https://twitter.com/seisaykanagawa>

入会申し込み:<https://forms.gle/qjP7gfFs4SPWbjNG8>



基本的なエアロゾル対策

新型コロナウイルス感染症のみならず、季節外れの流行をしているインフルエンザも、主な感染経路はエアロゾル(小さな飛沫)であることが様々な状況から明らかになっています。AIDS文化フォーラム in 横浜ではコロナ禍真っただ中での開催時も、ステージ上にサーキュレーターを設置し、空気の流れを創出し、エアロゾルの攪拌、排気を行い、今年度も実施しました。

ステージ上のサーキュレーターで空気の攪拌 →



感染症、射精道、コンドームの達人が語る性

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：岩田健太郎（神戸大学感染症内科） 今井伸（聖隷浜松病院リプロダクションセンター）
岩室紳也（ヘルスプロモーション推進センター）

内容：●今井伸（射精道の達人）

医者になって2年目の1998年頃に泌尿器科の臨床現場で射精ができない男性がすごく多いことに自分自身が驚いた。射精の仕方を教わったことがなく、オルガズムのない射精を自己流でしていた。今の時代はマスターベーションによる射精の仕方（亀頭部を手で、強く刺激し過ぎない）だけではなく、床等にこすりつける床オナの弊害や相手のことも考えた行動ができるように教える必要がある。射精道とは、「陰茎を持って生まれた男子が、射精を伴う性生活を送る上で守るべき道」である。

●岩田健太郎（感染症の達人）

感染症で求められているのは感染するリスク（頻度、結果）をどうマネージし、自分で考え、選択するかが重要。ワクチンの意味（感染、発症、重症化予防など）も正しく理解されていない（新刊参照）。急性期のリスクは過大評価されるが、慢性期のリスクは過小評価され、マスコミも取り上げない。大事な問題はメディアが騒がない問題であることを国民が考える必要がある。感染対策では一人ひとりの思いが前面に出てくるので難しい。

●岩室紳也（コンドームの達人）

「HIV/AIDS予防のためにはノーセックスかコンドーム」と伝えることで、感染した人が岩室の外来を受診しづらくなることに気づき、普及啓発の方法の難しさに直面。包茎をむいて洗っていけばHPVが原因の一つである陰茎癌も予防でき、女性の子宮頸がん予防のためにも亀頭部の清潔が必要と訴えている。

オナニーも、マスクも、コンドームも、ファクトはあっても、個人の価値観と選択が入るので難しい

参加者の感想：

- 感染症、射精、コンドームのこと、どんな話しになるのか、めっちゃ興味をもって参加しました。座談会…でしたが、各分野の専門家としてのご意見の数々…大変面白かったです。（40代、保健・医療・福祉関係、山梨県）
- 今井先生が思春期の男子に行っている性教育の実際をお聞きしたかった。（50代、教育関係、神奈川県）
- 若い世代に、もっと先生たちの話が届くことを祈ります！大人が知らないから自分の子どもにさえ曖昧にしてみました。（50代、保健・医療・福祉関係、神奈川県）
- リスクについての話の中で＜日本は巨大なリスクに取り組まない傾向＞とあったが残念だがこれが国民性なのかとも感じた。子どものうちから健康とお金についての教育が必要との意見に心底共感し今の日本の国政に対し様々な違和感の原因が自分の中で明確化された。（40代、教育関係、東京都）



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

私たちは必ず回復する

主催：ナルコティクスアノニマス（Narcotics Anonymous: NA）

ナルコティクスアノニマス(NA)は薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

内容：NAについて(動画・NAについての説明)・南関東エリアの活動について・オープンスピーカーミーティングについて

参加者の感想：

- ブースでいろいろなお話を伺い、とても期待して参加しました。語りの担当の方々の自分の気持ちを素直に伝えるお姿に学ぶところがたくさんありました。

連絡先：ナルコティクスアノニマス

E-mail: naminamikanto.pi@gmail.com URL: <https://najapan.org/>



5年で急上昇？女性向け風俗の現場から

主催：SPAWhite 久慈あす香

粘膜同士の接触がない女性向け風俗店の運営をしています。

内容：最近よく耳にする女性向け風俗。松坂桃李さん主演映画「娼年」を皮切りに店舗数は上昇している。2023年に至るこの5年間で「どのような女性の声が出たのか」、そもそも「女性向け風俗の現場とはどのようなものなのか」LINEのオープンチャットを使い、参加者様とコミュニケーションをとりながら女性の性について考えました。

質問事項例・女性の向け風俗とはどんなサービスでなぜ流行っているのでしょうか？・利用する人はどんな方が多くて、なにを求めているのでしょうか？・男性向けとのちがいはなんですか？・男性の風俗で働く人は様々な事情がある方多いイメージですが、女性向けの場合は男性従業員の方はどういう目的で働いているのですか？・利用している職業やパートナーシップの有無に特徴（専業主婦、共働き、独身）はありますか？

このような質問から「女性向け風俗とは、女性の心と身体の深呼吸、自分が自分で良いと思え、笑顔になれる、そういうお手伝いのお働きかな」と思われた来場者の方もいました。また、性感染症関連のお仕事をされている方の最新リサーチの場にもなったようでした。

連絡先：SPAWhite URL：<https://spa-white.jp/>



HIV感染症と歯科 —国際協力を通して見えてきたもの—

主催：神奈川県歯科医師会

県下の約4000名の開業歯科医や病院勤務の歯科医師で構成され、地域での歯科診療、自治体と協力した各種歯科検診、口腔疾患予防活動など行っている公益社団法人。

内容：県歯科医師会は1994年の第10回国際エイズ会議を契機にHIV陽性者の歯科診療に取り組んでいます。現在、その経験を活かしベトナム国ホーチミン市でHIV陽性者歯科診療体制構築に向けたJICA事業に取り組んでいます。今年も昨年に引き続きその活動を紹介しました。

その中で今回は横浜市南区の歯科医師 池野さんが国内のHIV歯科診療の取り組みについて「私は標準予防策に基づきHIV陽性者を診療しています。最近ではコロナの流行もあり感染対策に留意する歯科医院が増えていますが、HIV陽性者の診療拒否はなくなりません。それは主に歯科医療従事者のHIV感染症知識不足と考えています。県歯科医師会では感染対策セミナーを毎年開催しHIV陽性者の受け入れは徐々に良くなっていますが、受診先での対応を不快に思うHIV陽性者もいます。これからも心理面も配慮した対応を心掛け、その啓発にも取り組んでいきたいと思っています」と話しました。

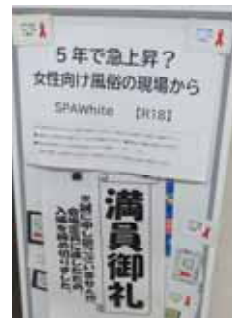
ホーチミン市での活動を通して、医療環境も含めた社会的背景の違いなどHIV感染症はこのフォーラム名にある「AIDS文化」であること再認識しました。私たちの活動がホーチミン市のHIV陽性者のQOLの向上に寄与し、その経験を日本でも活かせるようこれからも事業を進めていきたいと思っています。



連絡先：神奈川県歯科医師会

〒231-0013 横浜市中区住吉町6-68 TEL:045-681-2172 FAX:045-681-2426

URL：<https://www.dent-kng.or.jp/>



ジェンダーを学んで？ ジェンカレ1期生の本音トーク

主催：ジェンカレ ゼミ生 1期 有志

ジェンカレはジェンダーを包括的に学び一歩踏み出す場。そこで得たこととその後の活動について若者が語りました。

内容：AIDSとジェンダーは一見関係ないように思えます。しかし実は、性別によってこうするべき、といった規範や性教育の拡充など、ジェンダーはAIDSにとっても深く関係しているのです。そこで、ジェンダーについて考えるきっかけとしていただきたくこの企画を実施しました。

この企画では、ジェンダーについて包括的に学べる場である「ジェンカレ」で学んだゼミ生たちの事例を情報提供しつつ、参加者のみなさんと「ジェンダーを学んでどうということなんだろう？」というテーマを一緒に考えました。

より具体的には、ゼミ生有志の5名が「なぜジェンダーに興味を持ったのか？」「ジェンカレで何を学んだのか？」「ジェンカレで得た学びをどう活かしているのか？」などのテーマでトークしました。参加者の方にもその合間で「なぜこの企画を聞こうと思ったのか？」や、全体を通しての感想を話し合っていました。

参加者の感想：

- ジェンカレの皆さんの熱い思いに触れることができ良かったです。
- 自分も頑張ろうと思えました。

連絡先：ジェンカレ ゼミ生 1期 有志 URL：<https://gencollege.org/> お問い合わせ先：<https://gencollege.org/contact>



HIV/AIDSすきまミニ講座

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

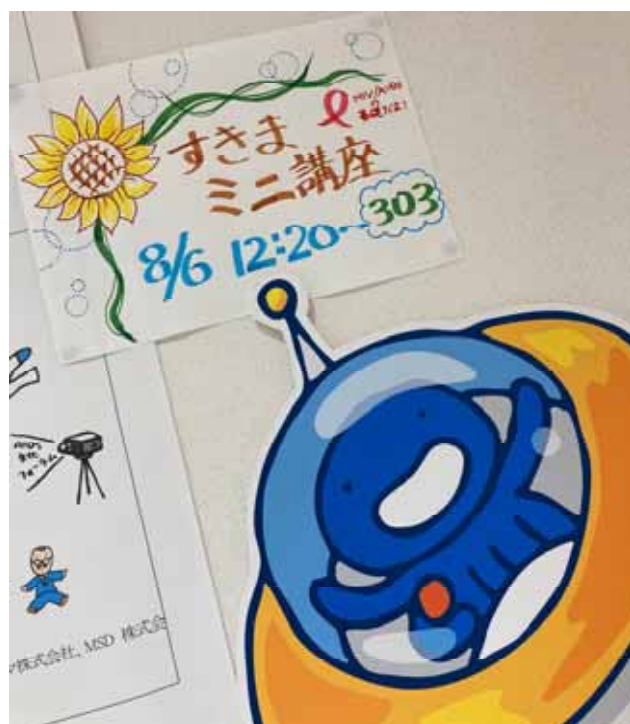
講師：山田雅子

内容：8月4日～6日の3日間、昼の30分間でHIV/AIDSについてのミニ講座を行いました。

来場者の方とお話しする時間もあり和やかな講座となりました。

5日(土)は展示会場での実施となったため駆けつけてきてくれた星野貴泰さんと2人で、展示会場を回って、予防に大事なコンドームの話題で盛り上がりました。コンドームの展示をしている団体をはじめとし、展示会場での発表団体に活動紹介を求め、来場者に紹介する時間となりました。6日(日)はサガミゴムの北田さんをゲストに迎え、なかなか知る機会のないコンドーム製作の工程についてお話しを頂きました。特にコンドームの型を見せて頂いた時の会場の方々の前のめりな感じはこれまでにない熱を感じる場面であり、あらためてコンドームについてもっと知って、コンドームを身近に感じられるような講座をやりたいと思う瞬間でした。快く横浜まで来て下さった北田さんに感謝！！です。

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会



もうすぐ死に逝く私から いまを生きる君たちへ

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

登壇：水谷修（水谷青少年問題研究所所長） 聞き手 岩室紳也（運営委員会）



内容：水谷修さんはAIDS文化フォーラム in 横浜への登壇はもちろんのこと、AIDS文化フォーラム in 京都の立ち上げにも尽力してくださりつつ、ご自身の病を公表し、講演タイトルの本も出版されながら精力的に活動されています。ほぼ同年代の二人に今の社会がどう映り、若い世代が生きやすい社会になるには何が必要かを考えました。

参加者の感想：

- 言葉にならない思いでいっぱいになりました。自分が幸せになることが何より大事なことだと改めて思いました。ありがとうございました。(40代、保健・医療・福祉関係、秋田県)
- 水谷先生のお話、興味深く拝聴しました。心理学について「自分が幸せじゃない人は人は救えない。自分の傷を癒すために他人を使うな」という言葉にとっても共感しました。精力的に活動されているご様子、とても素晴らしく感謝しかありませんが、どうかご自身の健康を第一にお大事にしてください。(40代、NPO/NGO、神奈川県)
- 学校ではスクールカウンセラーへ、医療へとつないだところで一安心となりがちですが、通院しだすとみるみる処方薬の副作用で繰り返し繰り返し保健室にやってくる。どんどん授業に出られなくなっていったりうつろな表情の姿を見て、正直むなしくなることもあります。でも先生方のお話あった、社会に何が必要か考えつづけることが未来へつながると考え、これからも目の前のできることから頑張っていこうと思えました。(50代、教育関係、東京都)



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

子どもたちが安心して暮らせる社会をつくるために

主催：横浜AIDS市民活動センター

講師：シオリーヌ（大貫詩織）さん（助産師・性教育You Tuber）

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設で2010年より(公財)横浜YMCAが受託運営しています。

内容：日本では、子どもたちが義務教育の時期に性に関する知識を十分に学ぶことができていないといわれています。年齢を重ねた大人たちも同じです。性教育を学ぶことで、社会はどうなっていくのかを助産師で性教育YouTuberのシオリーヌさんを講師に迎え、みなで考え学ぶ学習会を行いました。

性教育をやらねばというプレッシャーから「一緒に考え続けていこう」という関わりを持ち、実践していくことが大切になること、性、ジェンダー、セクシュアリティ、健康、人権、包括的性教育、すべて人生のライフプランに関わる本当に大事なこと、そしてそれを学び続けることは普通なことを皆で共有できました。

参加者の感想：

- 時代の変化に適応して、発信してくれるおかげで、どれだけの若者が救われていることか。ありがとうシオリーヌさん！
- 情報をきちんと整理して提示されているのがとても参考になった。
- 職場でジェンダーや性に関することが蔑ろにされることはダメなことだと改めて考えた。

連絡先：横浜AIDS市民活動センター 〒231-0015横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F

TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422 E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:http://www.yaaic.gr.jp/



何で忘れられるのか？ ～薬害エイズの活動の歩みから～

主催：薬害エイズを考える山の手の会

薬害エイズ訴訟が1996年3月に和解するも被害者の実情は亡くなる人も多く悲惨な状況で薬害エイズを風化させないために地域で始めた活動団体。薬害エイズ被害者と共に地域で学習会を開き毎年AIDS文化フォーラムに参加してきました。繰り返される薬害問題を取り上げながら27年活動を続けてきました。



内容：薬害エイズ裁判の和解から27年一和解当時は学生や若い人々を中心に当時の厚生省を取り囲む“人間の鎖”の行動で社会的関心も高かったのが、時が経つにつれて薬害エイズが忘れられようとしています。もう27年になるので現代の学生は生まれていません。忘れられる理由として、良い面と悪い面が指摘されました。良い面では薬害エイズ裁判の原告被害者側の勝利的和解により国(当時の厚生省)がエイズ拠点病院を設置してHIVエイズの治療体制の確立に向けて動き出しHIVエイズ治療が進み、もはやエイズは死ぬ病ではなくなったこと。悪い面では薬害問題の社会的関心が薄れ薬害エイズの後も新たな薬害が繰り返されていること。今もなおHPVワクチン(子宮頸がんワクチン)副反応被害で苦しんでいる若い女性が存在することを指摘しました。参加者はHIVエイズ治療に取り組む医師、保健所の保健師、マスコミ関係者、HPVワクチン被害者支援者と山の手の会のメンバーでカフェ形式の対話により問題の関心を深めました。

連絡先：薬害エイズを考える山の手の会・江川守利



性的同意を文化に 2 ～みんなで考えたい「性的同意」～

主催：上智大学エンパワメントサークル Speak Up Sophia

内容：ななみさん、ゆきさん、ゆめさん の3名によるサークルの説明、性的同意とは、第三者介入とは、性暴力とマジョリティ、マイノリティ、について講義とワークショップを織り交ぜた講座でした。スライドと動画でのわかりやすい説明があり、途中参加者が同意のコミュニケーションを体験する(ピザを作る)・・・他の参加者とペアになり、どんなピザを作ろうか話しあうというワークをしました。参加者は「サイズは？生地は？ソースは？トッピングは？」と自分の希望を伝えたり相手の希望をたずねたりしてピザを作り上げていく体験をしました。この体験を通して、性的同意とは積極的な意思表示と確認されるべき同意であり、それは非強制性(NOと言える)対等性(社会的地位などに左右されない)非継続性(ひとつの行為への同意は他の行為への同意ではない)ということを確認しました。

講座の最後には「性的同意を文化にしよう。加害者が増えないように被害者が一人で苦しまないように」というまとめに添えて「答えはすぐに出ないけれどこれから時間をかけて考えていきましょう」というメッセージで締めくくられました。

参加者の感想：

- 第三者介入について考える機会になりました。もっとひとつひとつゆっくりお話を伺いたいと思えました。
- 「性的同意を文化に」ととてもいいですね。私の希望でもあります。現状を変えることの難しさを感じると、希望を持つだけのただの理想主義者なのだと思いが停滞することがあります。ですが、Speak Up Sophiaの方のお話を聞き、「みんなで一緒に変えていこう！」と再び思うことができました。
- 大学生の皆さんが自ら立ち上げてこういった活動をしていることに未来への希望を感じました。



連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局

地域密着型CSE未来会議 powered By カワセク

主催：カワセク【かわさき包括的セクシュアリティ教育ネットワークCsexologue】（セクソロジー）

「川崎市内に包括的セクシュアリティ教育を広めよう」と川崎市民の有志が集まって2021年に設立した団体

内容：当団体は多様なバックグラウンドを持つメンバーが集まって活動しています。それぞれの視点や経験、専門性から様々なアイデアが湧き、活動が多岐に渡るようになりました。「地域に根ざした、多様なバックグラウンドを持つメンバーによる性教育」の重要性をひしひしと感じています。

今回の教室発表のゴールは、参加者皆さんがお住いの地域で、多職種で包括性教育を盛り上げる為にできることを語り合うことでした。最初に、多職種で地域の包括的性教育を盛り上げている活動の事例として、当団体の理念やこれまでの活動などを発表しました。その後、3～4名のグループに分かれて「こんな性教育がいい」「地域にこんな活動があったらいいな」という希望を挙げました。次に、それを実現するために「どんな職種に何を期待するか」も話し合い、最後に各グループで出た意見を全体で共有しました。

ひとつの事例を実現するのにたくさんの職種が活躍する余地があることを感じてもらえたと思います。

来場者感想：

- 多世代間で性教育について話す場の大切さを学びました
- 性教育やジェンダーに関するアプローチ方法はたくさんあって、色々な人と一緒にやっていきたいと思えます
- 参考になりました



連絡先：かわさき包括的セクシュアリティ教育ネットワークCsexologue

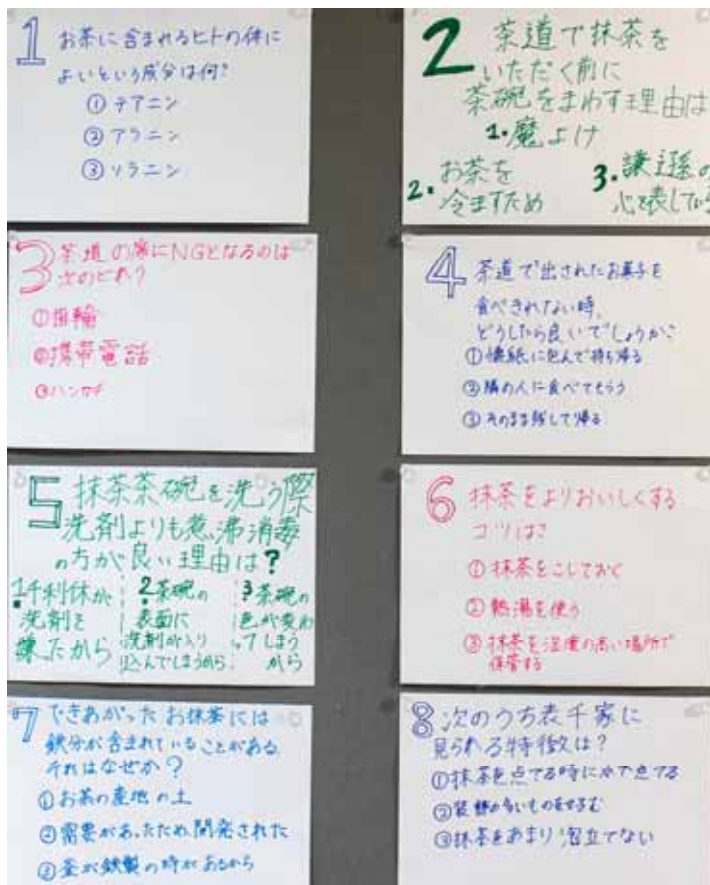
問合せ先：<https://kawasekucse.com/contact/> URL：<https://kawasekucse.com/>

横浜雙葉中学高等学校茶道部による「お茶にまつわるクイズ」

主催：AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

内容：横浜雙葉中学高等学校茶道部の皆さんが「茶道」や「お茶」に関連のある楽しいクイズを出して、正解した方には手作りのレッドリボンのクリップのプレゼントがありました。『お抹茶に含まれる体によい成分は？』『お茶席での作法でNGなもの何か？』など、難問やひっかけ問題もあったようで訪れた人は楽しそうに問題を解いた後、意外な正解について説明を受けたり質問したり会話がはずんでいました。正解するともらえるクリップをシャツや、バッグに付けて歩いている方が次第に会場内に増えていきました。

連絡先：AIDS文化フォーラム in 横浜事務局



展示ブース

アジアの女性と子どもネットワーク (AWC)

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容:「児童買春・児童ポルノ禁止法の抜本的改正を」

警察庁の発表では、2022年の子ども買春の検挙数は2,206件、被害を受けた子どもの人数は1,461人。子どもポルノの検挙数は3,035件で、被害児童数は1,487人、そのうち小学生以下が18.9%。小学生以下は盗撮による被害が全体の39%で、「自画撮らせ」による被害は全体の38.8%を占めている。小学生以下の子ども達の「自画撮らせ」被害も22.3%となっており、騙されて被害者になっている現状が後を絶たない。

女子高校生に様々なサービスをさせるJKビジネスも低年齢化しており、「撮影会」「抱っこ会」という名目で小学生(JS)、幼稚園児(JY)や乳児(JN)にもその被害は拡大している。米国国務省人身取引監視対策本部が発行した「人身売買報告書」では、「性的搾取を目的とする児童の人身取引というまん延する問題に日本政府は対応せず、(中略)4年連続で、未成年の女子高生と成人との出会いをあっせんする「JK」ビジネスや、ポルノ出演強要における性的搾取目的の児童の人身取引に対する法執行措置を報告しなかった。」と報告している。

これらの喫緊の課題に関して「児童買春・児童ポルノ禁止法」の抜本的な改正の重要性を来場者に伝えた。

連絡先: アジアの女性と子どもネットワーク

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9F YAAIC 内

TEL&FAX :045-650-5430 E-mail:awc@h6.dion.ne.jp URL: <http://www.awcnetwork.org/>



カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク

1995年からHIV/AIDSの啓発活動をしています。

内容:改修が終わったかながわ県民センター1階の展示会場は空調も効き、快適でした。

今回、既刊の小冊子「HIV/AIDSについて話したことがありますか」をA4サイズ1枚にまとめたリーフレットを配布しました。また、表面に羊のイラストが入った新デザインのクリアファイルを頒布しました。色はレインボーカラーと青の2種類ですが、レインボーカラーをお求めくださる方が多かったようです。

「宗教とエイズ」で登壇したカトリック司祭が話した「小さくされている人、虐げられている人とともにいる神が何を望んでいるか」という視点を念頭に、これからも活動していきたいと思えます。

連絡先: 日本カトリックHIV/AIDSデスク

〒135-8585 東京都江東区潮見2-10-10 日本カトリック会館6階

TEL:03-5632-4414 FAX:03-5632-7920

E-mail:hivaid@cbcj.catholic.jp

URL: <http://cath-aids-desk.jp/>



神奈川県ユニセフ協会

日本ユニセフ協会の協定地域組織として、広報、募金などのユニセフ協力活動を、地域に根ざし行っています。

内容: 2019年以来4年ぶりのブース出展となった今回、動画上映のほかに、新型コロナウイルス感染症の影響について展示しました。

パンデミックによる医療の混乱から「妊娠中のHIV診断ができず」「抗レトロウイルス療法を受けている子どもの割合が減少」し、コロナ禍でHIVの予防と治療が停滞していること、また若者に対するアプローチに変化を生み出せていない現状を数値で表しました。

特に来場者が関心を持って下さったのは、HIVとは一見関係のなさそうな美容師学校で学ぶタンザニアの女の子の写真。これはHIVとともに生きる上で、治療の妨げとなる差別や不公平を取り除くため、女の子や女性への就業支援を併せて行っている一コマです。このように現地のパートナー団体と協力し、HIVの医療的支援だけでなく、子どもの保護や教育など、包括的な支援を行っていることに「ユニセフらしいアプローチですね」とのお声をいただきました。

若者のHIVの治療や予防には、貧困や不平等を乗り越える彼ら自身のエンパワーメントが必要不可欠です。エイズのない世代の実現を目指し、世界中で活動するユニセフに引き続きご支援・ご協力をお願いします。

連絡先: 神奈川県ユニセフ協会

〒231-0063 横浜市中区花咲町2-57 ミシナビル201 TEL:045-334-8950 FAX:045-334-8951

E-mail: info@unicef-kanagawa.jp URL: <https://www.unicef-kanagawa.jp>



ジェクス株式会社

コンドーム、潤滑ゼリー、その他セクシャルヘルス・デリケートケア商品などを取り扱う総合医療品メーカーです。

内容: 展示ブースでは「コンドーム」や「潤滑ゼリー」等を並べ、サンプル配布をさせていただきました。このようなイベント限定で無料提供している、岩室先生がきっかけの「装着練習モデル」も好評で、現在では多くの性教育の現場で活用いただいております。水谷先生からの商品へのご意見もデザインに反映し、皆様からのご意見や繋がり、講義で学んだ内容は確実に何かの実となっております。昨年対面は解禁となっておりますが、今年はさらに参加者も回復傾向にありました。

ここに集う方々は各方面でまさに苦難の時期を乗り越えてアクティブな活動をされている方とお見受けいたしますので、今後もお力添えをいただきながら、新たな波を起こせればと思います。性を多様な文化から捉えるこのフォーラムは、性を専門にしている方だけでなく、広く興味を持っていただける内容で、私自身も毎年楽しみにしております。もっと多くの方に 知っていただき参加していただきたく、次回は案内や発信段階から貢献出来ないものか、微力ながらお手伝いできればと考えております。AIDS文化フォーラムを日本の性の文化、歴史にしたいですね。

連絡先: ジェクス株式会社

〒540-0012 大阪府大阪市中央区谷町2丁目3-12 マルイト谷町ビル11F マーケティング企画部 井上
大阪市中央区谷町2-3-12

TEL:06-6942-9002 E-mail: inoue@jex-inc.co.jp

URL: <https://www.jex-sh.jp/>



横浜AIDS市民活動センター

エイズについて考え行動する皆さんを応援する横浜市の施設です。2010年より(公財)横浜YMCAが受託運営しています。

内容:横浜AIDS市民活動センターはJR関内駅から徒歩3分のところにありますが、なかなか足が向かないという声に奮起!「ミニ・横浜AIDS市民活動センター開催中」と題し、かながわ県民センターに出張しました。

センターで貸出している書籍や絵本、保健体育の教科書をはじめ、LGBTQの支援先の紹介、各地のHIV・エイズの支援団体からのパンフレットやニュースレター、デートDVや性暴力の電話相談窓口紹介カード、コンドームにいたるまで皆さんの役に立つ情報をお届けしました。

「センターマスコットキャラクター・コムちゃん」が展示会場にやってきました。



来場者の感想

- 保健体育の教科書を何十年ぶりに見ました!
- 各地の支援団体資料があつて助かります!ニュースレターお一ふんを使わせてください。

連絡先:横浜AIDS市民活動センター

〒231-0015 横浜市中区尾上町3-39 尾上町ビル9階 TEL:045-650-5421 FAX:045-650-5422

E-mail:info@yaaic.gr.jp URL:https://yaaic.gr.jp/

性の健康イニシアチブ

人文社会科学の視点から「性の健康と権利」について追究する民間団体

内容:2009年から別の名称で活動していました。2021年に現名称(性の健康イニシアチブ)になり、2023年は3年目になります。組織としての知名度がないことから、様々なイベントにブース出展をしていくことを2023年の目標にしていました。

- ①フライヤーの配布 ②メッセージボードの設置
③SNS キャンペーン ④書籍の即売 をしました。

団体概要の書かれた三つ折りパンフレットを配布しました。その時に興味を持って立ち止まって話を聞いてくれた方に、「性の健康のために今日からこれやる宣言」「同意」をテーマにメッセージをください」という2つのテーマでカードにメッセージを書いてもらいメッセージボードに貼っていくキャンペーンを行いました。同時に、メッセージカードを持ったセルフイー(またはメッセージカードのみの写真)をSNSに「#性の健康イニシアチブ #concentheart」というハッシュタグとともに投稿するキャンペーンも行いました。SNSキャンペーンに参加してくれた方にはノベルティステッカーを差し上げました。

書籍は、「性の健康を学ぶためのオススメ本」を厳選し、6種類を置きました。多くの方が手に取り購入してくれました。



HPのブログに報告記事を載せました。

⇒<https://sexualhealth-initiative.org/reportbooth2023080406>

連絡先:性の健康イニシアチブ

URL:<https://sexualhealth-initiative.org> E-mail:hello@sexualhealth-initiative.org

ナルコティクスアノニマス 私たちは必ず回復する

ナルコティクスアノニマスは薬物依存からの回復を目指す当事者の、国際的かつ地域に根ざした集まりです。

展示内容: NAについての紹介、ミーティングの案内、NA資料、実際に使われているテキスト。

感想: NAに興味がある方などにNAを知ってもらえる機会ができてよかった。メンバーも喜んでいました。



連絡先: ナルコティクスアノニマス E-mail: naminamikanto.pi@gmail.com URL: <https://najapan.org>

日本HIV情報センター (Japan HIV Information Center)

JHICは、皆が共に生きる社会を目指し、HIV/AIDSに関する情報提供、相談などを行なう非営利団体です。

展示内容: メッセージキルトと、これまで啓発キャンペーンやイベントなどで配布された面白い・可愛いデザインのコンドームの展示をしました。

JHICとしては初めてのリアル会場での展示でした。コンドームは見て下さった方の反応が良く、若い女性も気軽にコンドームを手にとって、セーフターセックスを身近なものとする工夫の話を楽しんでくれました。「写真を撮っていいですか」と言う申し込みが多かったのも印象深かったです。

今回、JHICは小さな団体なので立派なブックレットや記念グッズが準備出来ず、自分達に出来る範囲での展示だったのですが、予想外の好評に驚きました。特に、ブースを撮影し、その写真をSNSに上げてもらうのも1つの啓発の形なのだと気付かされたのは、JHICとしても新しい視点でした。

AIDS文化フォーラムが始まって30年、インターネットの進化、SNSの普及、#MeToo運動やLGBT支援法など、時代は確実に「HIV/AIDSと言う未知の病について学ぶ」から、「誰もが自分の性のあり方について考え共有する」時代へと変わって行っている事を実感しました。他の団体の方々との交流も楽しく、本当に実り多い3日間でした。

連絡先: 日本HIV情報センター (JHIC)

E-mail: jhic.jpn@gmail.com

URL: <https://sites.google.com/view/jhic/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Jhic.Jpn>

X(Twitter) → 日本HIV情報センター @jhic2020jpn_hiv



横浜市青少年育成センター

横浜市青少年育成センターは、青少年を支える人や団体、そしてこれから「青少年の力になりたい」という方たちを応援する施設です。

展示内容: 横浜市青少年育成センターは、『すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人とのつながりの中で成長できる地域づくり』を目指し、さまざまな事業を実施しています。

青少年に関わる育成者のための専門研修として、性教育について取り上げており、関内・馬車道地区の青少年世代のユースクリニックのような相談窓口や居場所の提供を今後考えている中で、今回のAIDS文化フォーラムin横浜のブース展示に参加させていただきました。

展示の内容は、育成センターの施設紹介及び、2023年度実施予定の『青少年に関わるための専門研修 性教育を学ぶ』の事業紹介を主に主催事業のご案内を行いました。ブースへの来場者は3日間で延べ56人でした。

ご来場者様にはユースワークに興味を持って下さる方が何人かいらっしゃったり、若者にも関わるような立場の方と交流が出来たり、良い機会をいただきました。



連絡先: 横浜市青少年育成センター 〒231-0013横浜市中区住吉町4-42-1関内ホール地下1階

TEL:045-664-6251 FAX:045-664-6254 E-mail:ikusei@yokohama-youth.jp

URL: <https://yokohama-youth.jp/ikusei/>

「極私的梅毒展」コケ丸

ハコ物館作家・コケ丸(個人)による本展は、梅毒に感染したゲイの親友ふたりの体験を、半立体のインフォグラフィックにして箱に詰めた展示です。

展示内容: 感染経緯に始まり、症状、治療、検査など14箱からなるストーリーで構成されています。周囲の壁面には、医療関係者からのアドバイスや、過去の来場者からのリアルなコメントを吹き出しとして掲示しました。来場者は、これらを見ながら、疑問や感想などを設置のボードに貼り付け、それに誰かが返答するなど、会期中に進化していくのが特徴です。また、10代の若者へ向けて新たな箱を2つ制作。「SEX」と「出会い方」に関するポジティブな考え方を紹介するものでしたが、多世代にわたって共感の声を頂いたように思います。図録などの物販コーナーでは、「ポジティブヘルス」というオランダ発の健康の概念に基づく、参加型のミニワークショップを実施しました。質問と対話によって、レーダーチャートを描く自己分析です。手法は模索中ながらも、「ひとりでは気付かない発見を得た」と意外に好評でした。梅毒の具体的な情報提供はもちろんですが、性感染症を通して見えてくる特殊性や課題を提起しつつ、話題にしやすいキッカケになればと思っています。来場者は、世代もセクシュアリティも多様で、今後のアップデートにつながる新たな視座をもらう機会となりました。



連絡先: 極私的梅毒展 Twitter @kokemaru1016

▼2023年5月の展示概要 <https://www.space-utility.com/kokemaru-syphilis>



閉会式 ～広がるAIDS文化フォーラム～

～AIDS文化フォーラム in 陸前高田 横浜 名古屋 京都 佐賀～

内容: 今年は今会場ボランティア作成の スライドショーで振り返るAIDS文化フォーラムin横浜の3日間があり、会場の皆様と、この3日間の講座を素敵な音楽とともにたどりました。

特に今年には1階での展示発表が復活し、コケ丸さんによる「極私的梅毒展」をはじめ、人の交流が生まれる展示会場の復活の兆しを感じることができました。

今年、横浜の開催に先駆けて、6月に開催された佐賀、10月開催の京都、12月開催予定の名古屋、久々に会場参加して下さった陸前高田(2月予定)・・・と、各地運営委員の皆様から温かいメッセージと今後の展望などの発表がありました。コロナ禍の影響により、開催方法の変更などを余儀なくされてもお「文化フォーラム」としてできることを追求していく姿勢を再確認できました。

そして「未来をみつめて」という今年のテーマに思いを寄せて今後私たちがどのような道を進んでいくのか考えました。参加された発表団体の方、ボランティアの方、講座を聴きにいられた参加者の方などから感想を頂いて、互いにまた未来に向けたエネルギーを分かち合えたのではないのでしょうか。



高校生ボランティア作成動画

参加者の感想:

- ユーチューブ視聴での参加でした。遠方からでも、他の用事が重なっていても参加できたこと、ありがとうございます。(60代、保健・医療・福祉関係、大阪府)
- 岩室先生のお言葉に、最後笑いました。続けられる限り、続けていただきたいし、毎年楽しみにできることがあるのは、誰かの生きがいにもなっていると思うので。スライドも、よかったです。(40代、兵庫県)
- 今回、初めてAIDS文化フォーラムin横浜に参加させていただきました。AIDS文化フォーラムが各地で長年続いている理由が少し分かった気がします。特に「未来を見つめるとは今の人を見つめること」というフレーズが印象に残っています。未来を考える時は先の事ばかりに目が行ってしまいがちですが、今を把握できていないのに未来を語る事はできないと気付かされました。ありがとうございました。(10代、学生、秋田県)



新聞記事

カトリック新聞 2023年8月20日

AIDS文化フォーラムin横浜 対話続ける大切さ確認 座談会「宗教とAIDS」

AIDSについて、市民レベルで幅広い角度から学び合おうと開かれていた第30回「AIDS文化フォーラムin横浜」が8月4日から6日まで、かながわ県民センター（横浜市）で「未来を見つめて」をテーマに開かれ、会場とオンライン合わせて3日間に延べ約3千人が参加した。プログラムの中心では座談会「宗教とAIDS」も

行われ、仏教、キリスト教のプロテスタント、カトリックの宗教者が登壇し、対話することの重要性を改めて確認した。

「宗教とAIDS」では医師の岩室紳也さん（同フォーラム運営委員）が司会を務め、パネリストとして浄土真宗本願寺派僧侶の古川潤哉師、日本基督教団牧師でカトリックHIV/AIDSデスク委員の平良愛香牧師、カトリックから横浜教区の水上健次神父が話した。

古川師は20代の頃にホスピスでボランティアをし、がんやAIDSを患った人たちに関わったことからHIV（ヒト免疫不全ウイルス）について学び始めた。現在、公立の中学・高等学校で、僧侶として性教育の講座を持っている。「道徳的な話には『こうあるべき』で終わってしまい、科学

的事実は大事だけれど事実でしかない。宗教は救いが中心なので、分かっている時、うまくいかない時、その人に寄り添う」ものだと述べた。



左から岩室さん、水上神父、平良牧師、古川師

岩室さんから、それぞれの宗教が同性愛についてどう捉えているか質問が出ると、水上神父は、「カトリック教会として」「完全に受け入れます」というところまで「たどり着いていない」が、「誰も疎外しない神」が何を望んでいるのかを問いながら、異なる考えの人同士が対話を通じている段階ではないかと話した。

古川師は、「性の多様性は仏教の時代から知られ、経典の中にもそれによって生きづらいうるが、経典を生かすのは宗教者という人間だと話した。」
話題は、同性婚や異性婚についての考え方や、現代の青年たちの世界観、死生観なども及んだ。
岩室さんは最後に、「聞くこと、対話し続けることが大切で、その時に道しるべとなるのが各宗教の教えなのかと感じた」と感想を述べた。

今回の主催は同フォーラム組織委員会。神奈川県が共催し、横浜YMCAが事務局を務めた。

安定した配信が可能に

ホール講座のハイブリッド開催



今年はホールのプログラムはすべて現地でもYouTube視聴でも参加できる方式となりました。視聴者から「子育て中でなかなか会場に子どもを連れていけません。来年もYouTube配信して欲しいです」との声をいただきました。

初日は無線マイクの干渉による音割れが発生し、オンラインでの参加でしたが音が割れて内容に集中できず残念でしたというご意見を多数いただきました。調整の結果、翌日以降はミキサー経由の音声配信のみに切り替え、きれいな音で配信することができ、マイクの調子が改善され良かったという声をいただきました。映像はカメラ4



台を瞬時に切り替えられるようにしたため、見やすい映像作成が可能となりました。機材はもちろんのこと、経験を積んだボランティアスタッフのお陰で、非常にレベルの高い配信が可能となりました。

フォーラム全体集計表

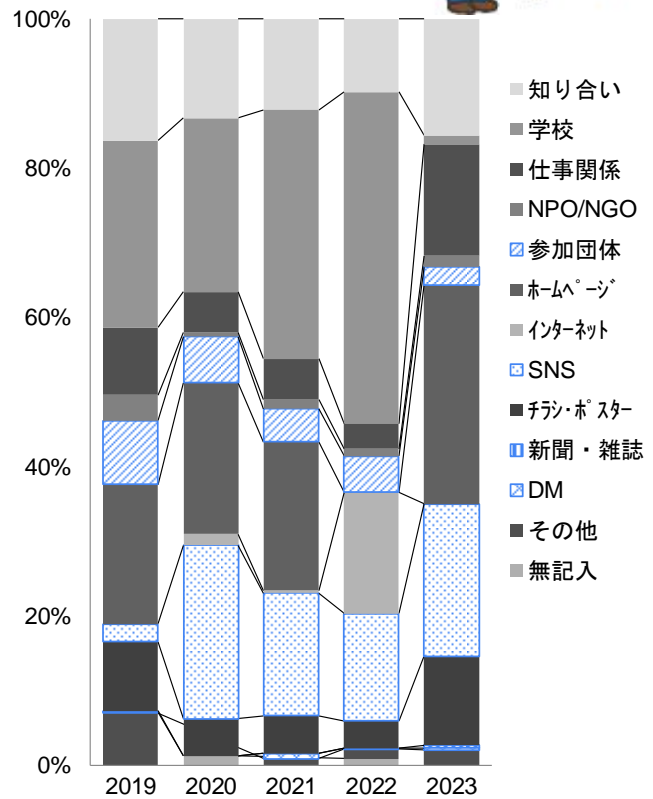
◆全体集計推移（2019～2023）



1. 何で知ったか

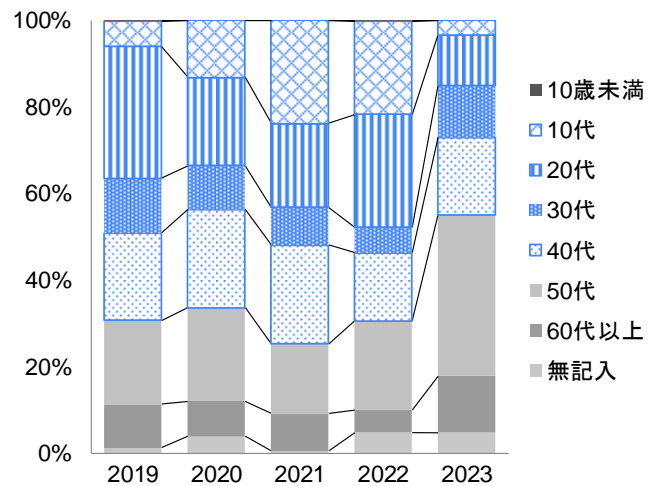
| | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|-----------|------|------|------|------|------|
| 知り合い | 178 | 125 | 134 | 85 | 52 |
| 学校 | 273 | 219 | 369 | 386 | 4 |
| 仕事関係 | 99 | 51 | 60 | 29 | 50 |
| NPO/NGO | 37 | 6 | 14 | 9 | 5 |
| 参加団体 | 94 | 58 | 49 | 42 | 8 |
| ホームページ | 204 | 191 | 220 | 0 | 98 |
| インターネット | | 14 | 4 | 141 | 0 |
| SNS | 26 | 219 | 181 | 125 | 68 |
| チャット・ポスター | 101 | 47 | 56 | 32 | 40 |
| 新聞・雑誌 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| DM | 1 | 0 | 8 | 1 | 1 |
| その他 | 77 | | 10 | 11 | 7 |
| 無記入 | | 12 | | 8 | |
| 計 | 1092 | 942 | 1105 | 869 | 334 |

※SNS：Facebook 34、Twitter 33
Instagram 1



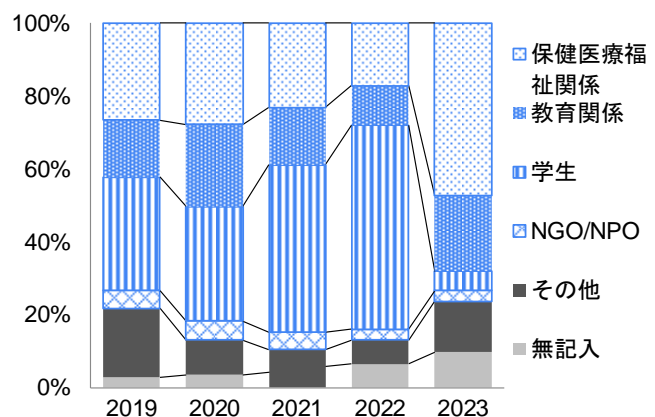
2. 年齢

| | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|-------|------|------|------|------|------|
| 10歳未満 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 |
| 10代 | 55 | 91 | 192 | 145 | 7 |
| 20代 | 286 | 141 | 157 | 176 | 24 |
| 30代 | 118 | 70 | 70 | 40 | 25 |
| 40代 | 190 | 157 | 184 | 106 | 37 |
| 50代 | 182 | 149 | 130 | 139 | 77 |
| 60代以上 | 94 | 56 | 70 | 35 | 27 |
| 無記入 | 12 | 27 | 4 | 33 | 10 |
| 計 | 939 | 691 | 807 | 676 | 207 |



3. 職業等

| | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 保健医療福祉関係 | 249 | 192 | 187 | 116 | 98 |
| 教育関係 | 146 | 156 | 127 | 73 | 43 |
| 学生 | 292 | 217 | 370 | 379 | 11 |
| NGO/NPO | 46 | 36 | 39 | 20 | 6 |
| その他 | 176 | 66 | 84 | 44 | 29 |
| 無記入 | 27 | 24 | | 44 | 20 |
| 計 | 936 | 691 | 807 | 676 | 207 |

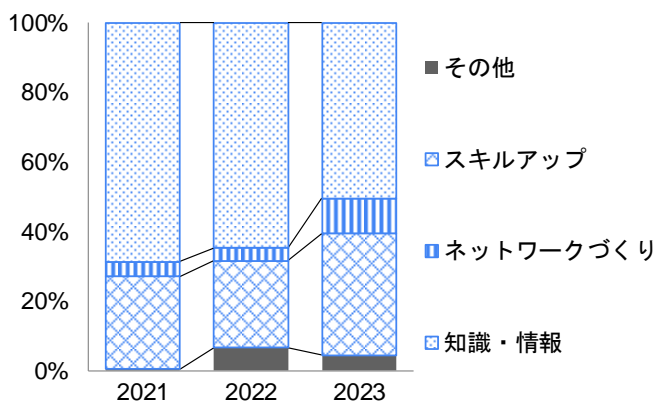


◆2023年参加者の居住地（都道府県別）

| 地域 | 都 道 府 県 | | | | | | | | 小計 |
|--------|---------|----|----|----|----|----|-----|----|-----|
| 北海道・東北 | 北海道 | 青森 | 岩手 | 秋田 | 宮城 | 山形 | 福島 | | |
| | 1 | | 1 | 9 | | | 4 | | 15 |
| 関東 | 茨城 | 栃木 | 群馬 | 埼玉 | 千葉 | 東京 | 神奈川 | | |
| | | 6 | 9 | 2 | 6 | 27 | 106 | | 156 |
| 中部 1 | 新潟 | 富山 | 石川 | 福井 | 山梨 | | | | |
| | | | | | 4 | | | | 4 |
| 中部 2 | 長野 | 岐阜 | 愛知 | 静岡 | | | | | |
| | 1 | | 3 | | | | | | 4 |
| 近畿 | 三重 | 滋賀 | 京都 | 大阪 | 兵庫 | 奈良 | 和歌山 | | |
| | | | | 1 | 6 | 1 | 1 | | 9 |
| 中国 | 鳥取 | 島根 | 岡山 | 広島 | 山口 | | | | |
| | | | | 1 | | | | | 1 |
| 四国 | 徳島 | 香川 | 愛媛 | 高知 | | | | | |
| | | | | | | | | | 0 |
| 九州・沖縄 | 福岡 | 佐賀 | 長崎 | 熊本 | 大分 | 宮崎 | 鹿児島 | 沖縄 | |
| | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| 海外 | | | | | | | | | |
| 合計 | 2 | 6 | 13 | 14 | 16 | 28 | 111 | 1 | 191 |

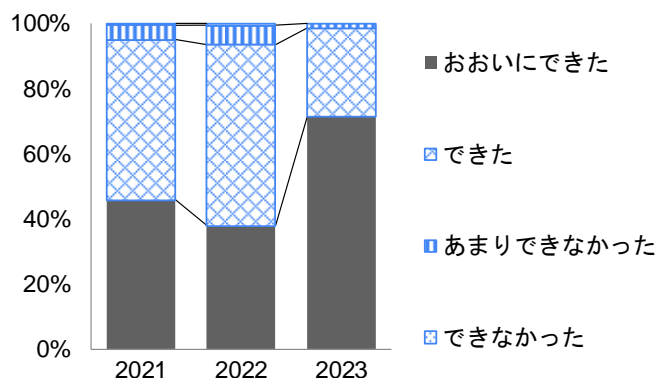
4. 来場目的

| | 2021 | 2022 | 2023 |
|-----------|------|------|------|
| 知識・情報 | 749 | 604 | 180 |
| ネットワークづくり | 46 | 35 | 36 |
| スキルアップ | 292 | 233 | 125 |
| その他 | 5 | 62 | 16 |



5. 来場目的は達成したか

| | 2021 | 2022 | 2023 |
|-----------|------|------|------|
| おおいにできた | 369 | 253 | 148 |
| できた | 397 | 372 | 56 |
| あまりできなかった | 37 | 39 | 3 |
| できなかった | 4 | 4 | |



2023年もハイブリッド開催でしたので北は北海道、南は沖縄からもご参加いただきました。会場に来る予定だった方が飛行機の欠航のため来場できなかったものの、オンラインで参加していただくことができました。

AIDS文化フォーラム in 横浜 30回の歩みー開催概要と経緯ー

第1回(1994年)～第8回(2001年) 開催概要

| 開催年 | 回数 | テーマ | プログラム数 | 参加団体数 | 会場 | 入場者数 | 開催日数 | 話題/社会 | 来場者傾向 |
|------|----|------------------------|--------|-------|----------------|-------------------------------|------|------------------------|------------|
| 1994 | 1 | 市民と海外NGOによる AIDS会議 | 58 | 40 | 国際交流協会 神奈川県 | 4,305 | 9日間 | 市民のエイズ会議 国際AIDS会議開催 | 地元市民 中心 |
| 1995 | 2 | ともに生きる | 31 | 26 | | 2,200 | 3日間 | 母親が語る薬害エイズ 薬害報道の増加 | |
| 1996 | 3 | ともに生きるから連帯へ | 34 | 28 | | 1,600 | | 性風俗とAIDS 薬害/薬害和解 | |
| 1997 | 4 | 未来へのつどい | 72 | 56 | 4,607 | 映画・秋桜 カクテル療法 | | 全国から 参加 | |
| 1998 | 5 | エンパワーメント～ 自立と協働に向けて | 76 | 50 | 5,694 | TV・神様もう少しだけ HIV感染者の身体障害者認定 | | | |
| 1999 | 6 | いまを生きる | 70 | 47 | 3,240 | 複数作家の写真展 ビル解禁・感染症予防法施行 | | 医療・教育 の 専門職増加 | |
| 2000 | 7 | いま一人ひとりができること | 64 | 49 | 3,801 | 女性プログラム 女性用コンドーム・薬物乱用 | | | |
| 2001 | 8 | いま一人ひとりができること | 72 | 52 | 3,946 | バリアについて考える ハンセン病に学ぶ | | | |

第1回(1994年)～第8回(2001年) 主な内容

市民による市民に開かれた手弁当フォーラム！

高額な参加費がかかる医療関係者中心の第10回国際エイズ会議(横浜)に対して、市民のためのエイズ会議を市民の手で実施しようという趣旨で始まりました。

- 第1回(1994年)：社会の中で偏見と差別のみ語られていたAIDSという病気に対し、ボランティアの働きによる新しい市民レベルの社会へのアプローチとして当時高い評価を得ました。
- 第2回(1995年)～第3回(1996年)：「第1回での成果を一過性のものに終わらせること無く、継続して欲しい」というAIDSに関わるNGO等からの強い要望があり開催を継続してきましたが、社会的な関心の薄れと共に、参加者数の減少など様々な課題が明らかになりました。

第1回～第3回

AIDS文化フォーラム

日時：1994年8月6日～14日
場所：財団法人国際交流協会横浜支部
横浜市中区山下町2 国際交流センター1階
5977の7の郵便局5977-0002AIDS課
入場料無料



主催：AIDS文化フォーラム実行委員会
共催：神奈川県、横浜市、国際交流協会
後援：日本赤十字社、日本エイズ学会

第4回～第6回

新たな工夫と挑戦へ！～量から質へのシフト

徹底した評価・検証の中で、より積極的な取り組みを行いました。会場をかながわ県民センターへ変更したことに加え、運営体制の見直し、そして参加者のニーズにあうようにプログラムの充実化を図りました。

- 第4回(1997年)：「PWA (People with AIDS) のネットワーク」をテーマとし、PWAs名がプレゼンターとなるなど、HIV陽性者の方々の積極的な協力がありません。
- 第5回(1998年)：治療薬が増え、HIV感染は慢性疾患になったと言われ始めました。テレビドラマ「神様、もう少しだけ」がヒットし、社会的関心が高まり、主演の深田恭子さんも来場しトークを行いました。
- 第6回(1999年)：1日のコマ設定を4コマから3コマに減らしたことで、各コマとも落ち着いた議論と交流が可能となりました。

第7回～第8回

専門職来場者の増加～継続することの意味を確認

従来からの「専門職が一般市民を指導・教育・啓発する」という発想を超えて、「市民側から専門職に情報交換の場と市民の手法を学ぶ場を提供していく」というように逆転してきました。全国の医療や教育の専門家からも期待される横浜の夏の恒例行事として定着しました。

- 第7回(2000年)：恋人とのセックスでHIVに感染した北山翔子さんやタレントの岡田美里さんのトーク、女性用コンドーム、ビル、と「女性」をテーマとしたプログラムが多く組まれました。
- 第8回(2001年)：パラリンピック金メダリストの成田真由美さんとHIV陽性者の桜屋伝衛門さんのトークを通して「障がい」という視点でHIV/AIDSの問題を改めて考える機会となりました。

第9回(2002年)～第17回(2010年) 開催概要

| 開催年 | 回数 | テーマ | プログラム数 | 参加団体数 | 会場 | 入場者数 | 開催日数 | 話題/社会 | 来場者傾向 |
|------|----|-----------------------------|--------|-------|------------|------|------|---------------------------------|-----------------------------|
| 2002 | 9 | つながるつながる | 81 | 56 | かながわ県民センター | 4808 | 3日間 | 国際NGOによる講座 FIFAワールドカップ日韓大会議 | 国際NGO等 幅広く拡大 |
| 2003 | 10 | AIDSこれまでの10年、 これからの10年 | 74 | 55 | | 4624 | | 七生養護学校事件 北半球でSARS感染拡大と終息 | |
| 2004 | 11 | いのち ～市民が続けるAIDSへの取り組み | 83 | 66 | | 6031 | | 若者の参加 国際エイズ会議(バンコク) | |
| 2005 | 12 | つながる空間 | 74 | 60 | | 5509 | | アジア太平洋地区 エイズ・神戸会議開催 | 文化的 側面からの アプローチ 増加 |
| 2006 | 13 | つながる空間 ～Living Together～ | 72 | 56 | | 3880 | | 第20回日本エイズ学会会長に NPO代表の池上千寿子さん | |
| 2007 | 14 | つながる | 71 | 56 | | 3689 | | かながわレインボーセンター SHIP開所 | |
| 2008 | 15 | つながる ～いま、私にできること～ | 75 | 60 | | 4170 | | 第4回アフリカ開発会議横浜開催 リーマンショック | |
| 2009 | 16 | 他人ごと?! | 55 | 54 | | 3547 | | 新型インフルエンザ 民主党への政権交代 | |
| 2010 | 17 | 他人ごと?? | 52 | 52 | | 3296 | | 猛暑 1ドル80円台 | |

第9回(2002年)～第17回(2010年) 主な内容

第9回～第12回



■第9回(2002年)：自らカンボジアなどでボランティア活動をしている有森裕子さんの話に多くの人が勇気付けられました。

先進国で唯一エイズ患者が増え続ける日本の状況を憂慮し、若者へのアプローチを強化しました。若者主体の企画や演劇・映像・音楽・アートを活用した、若者を引きつける会場運営を心がけた結果、多くの来場者を迎えることができました。

■第10回(2003年)：脚本家の早坂暁さんが「HIV/AIDSを題材に番組を制作するとしたら」という設定で、俳優の鳥丸せつ子さんと参加者と共にドラマストーリーを考えました。また、若者の覚醒剤問題に体を張って取り組む水谷修さん(夜回り先生)の講演に多くの参加者が集まり、関心の高さがみられました。

■第11回(2004年)：飯島愛さんを迎えて、エイズ・愛・セックスについてのトークショーを行いました。愛さんの明るいキャラクターと会場参加型の企画に大いに盛り上がりしました。



■第12回(2005年)：飯島愛さんと北山翔子さんがそれぞれの実体験をもとに人を愛すること、そして生きることをテーマに語られた言葉は、来場者の心に深く響きました。また、会場ボランティア数は110名と過去最高でした。

つながる空間、「他人ごと」から「本音の対話」へ

第13回～第17回

ネットワークを広げ連携を深めるために、HIV/AIDSに関する様々な活動に携わる団体・個人との対話の場が増えました。その中で宗教や立場・活動・体験は違っても、豊かに共に生きることを教えられ、「つながる」ことの大切さを確認することができました。

■第13回(2006年)：「エイズと宗教を語る」では、仏教、キリスト教、HIV陽性者の3者がそれぞれの立場から違いを超えて「つながる」ことの大切さを語りあいました。また、参加者から発表者となった医大生の遠見才希子さんがピア講座を担当するなど若者の活躍がみられました。日本エイズ学会の会長に、NPOの代表の池上千寿子さんが就任した、画期的な年でした。

■第14回(2007年)：3名のHIV陽性の当事者がそれぞれの主治医とともに、患者と医療者の関係性(パートナーシップ)をテーマに語り合いました。長年にわたるエイズ医療に共に取り組むためにはコミュニケーションやカウンセリングを通して信頼関係を構築することが重要であると訴えました。

■第15回(2008年)：教育関係のニーズに応え15もの教育を視点としたプログラムが開催されました。中でも学校でのエイズ教育を念頭においたセッションをエイズ教育シリーズとして紹介し、最終日に「徹底討論～エイズ教育に求められるものは何か」では、本音で意見を交わしました。

■第16回(2009年)：正しい知識だけでは予防ができません。HIV/AIDSを他人事(ひとごと)と思っていた当事者たちの声に耳を傾け、医療関係者が、教育関係者が、宗教関係者が、そして参加者の一人ひとりがつながる中で、自分自身の課題と考える第一歩を踏み出しました。

■第17回(2010年)：妊娠時にHIV感染がわかった石田心さんがトークセッション。閉会式は5年前のフォーラムでピアエデュケーションに目覚め、今や全国を飛び回っている遠見才希子さんが、医学生最後の年に司会を務めました。

| 開催年 | 回数 | テーマ | プログラム数 | 参加団体数 | 会場 | 入場者数 | 開催日数 | 話題 / 社会 | 来場者傾向 |
|------|----|------------------------------|--------|-------|----------------|----------------------------|----------------------|------------------------------------|-----------------------------|
| 2011 | 18 | エイズの何を知っていますか？ ～変わる常識～ | 64 | 44 | かながわ県民センター | 3,255 | 3日間 | 東日本大震災 福島原発事故 | 被災地とのつながり |
| 2012 | 19 | AIDS ?? 文化 ??? ～仲間 新発見！～ | 69 | 53 | | 3,184 | | 第26回日本エイズ学会横浜開催 | 専門職の増加 |
| 2013 | 20 | これまでの20年 これからの20年 | 70 | 56 | | 4,278 | | 京都、陸前高田でAIDS文化フォーラム開催 全国3か所に広がる | 参加者増で賑わう |
| 2014 | 21 | 未来につなぐ新たな船出 | 69 | 56 | | 4,165 | | 佐賀でAIDS文化フォーラム開催 全国4か所に広がる | 心機一転 |
| 2015 | 22 | 今こそ、ともに生きる | 67 | 54 | | 3,701 | | LGBTの権利拡大 渋谷区条例など | 交流拡大 |
| 2016 | 23 | つながる ひろがる わかちあう | 66 | 55 | | 3,542 | | 津久井やまゆり園事件 | 10代増加 |
| 2017 | 24 | リアルとであう | 65 | 49 | | 6,394 | | 名古屋でAIDS文化フォーラム開催 全国5か所に広がる | 入場者増加 |
| 2018 | 25 | #リアルとつながる | 62 | 47 | | 5,355 | | AIDS文化フォーラム記念切手作成 SNSによる情報発信開始 | 25周年を意識 |
| 2019 | 26 | <話す>と<リアル>に！！ | 58 | 45 | | 4,347 | | YouTubeライブ配信に挑戦 | オンラインの つながり |
| 2020 | 27 | リアルにふれる 一人ひとり大切なことを探してみよう | 24 | 16 | | オンライン | | 4,076 | オンライン開催 新型コロナ感染拡大・オリパラ延期 |
| 2021 | 28 | ともにいきる つながりの参加者になる | 24 | 21 | 2,983 | 新型コロナデルタ株流行 東京オリパラ無観客開催 | | | |
| 2022 | 29 | 文化 ～くりかえされるもの うまれるもの～ | 23 | 13 | 県民センター かながわ | 3,096 | ハイブリッド開催 新型コロナ第七波 | ピンポイント参加 | |
| 2023 | 30 | 未来をみつめて | 41 | 31 | 3,067 | 対面開催（一部配信） 梅毒流行 | | | |

第18回(2011年)～第30回(2023年) 主な内容

第18回～第21回

つながりが、絆がAIDS文化フォーラム in 横浜・京都・陸前高田・佐賀に

■第18回（2011年）：オープニングで陸前高田市の方々が被災地の状況を報告。10月には「AIDS文化フォーラム in 京都」開催。これまでのフォーラムを通してできたつながりが新たな絆につながっていきました。

■第19回（2012年）：AIDS文化フォーラム in 京都や日本エイズ学会（横浜）とのつながりにより、HIV/AIDSを文化の視点で考えることの大切さを実感。

■第20回（2013年）：陸前高田でAIDS文化フォーラムが開催された。20年を区切りにせず、新たな広がりを持ったフォーラムに。

■第21回（2014年）：AIDS文化フォーラムが佐賀に広がる。多くの人や地域からのサポートがあってこそその継続や広がりを実感！

第22回～第23回

つながる・ひろがる・わかちあう

■第22回（2015年）：事務局が1階に移り、展示・交流スペースでの交流が活発に。予防啓発に加え、一人ひとりが生きていくために、いま、何が求められているかを、いろいろな人たちと一緒に考える時代になりました。

■第23回（2016年）：熊谷晋一郎先生の「自立は依存先を増やすこと」に学び、病気や障がいを抱えている人だけではなく、一人ひとりの生き方、支え合い方を考えるフォーラムになりました。

第24回～第26回

「リアル」がキーワード？

■第24回（2017年）：バーチャルなことが溢れる世の中になったからこそ、「リアルとであう」大切さを再確認しました。その思いを結集すべく、SNS等を広報にも積極的に取り入れた結果、入場者数が一気に増えました。

■第25回（2018年）：気が付けば25年、四半世紀。当初からHIV・AIDSをとりまく様々な文化とつながり続け、「つながりから考える薬物依存症」という書籍も誕生するなど、HIV・AIDSに学び続けている人たちが集うフォーラムの成長を実感した年でした。

■第26回（2019年）：HIV感染、同性婚、薬物使用、AVについて、一人ひとりがリアルに「話す」ことでこそ理解が進むことを実感することができました。

第27回～第30回

新型コロナウイルスの影響を乗り越え、みつめる未来は・・・

■第27回（2020年）：新型コロナウイルスの感染拡大により、zoomやYouTubeライブを用いたオンラインセミナー、動画による活動紹介等、全企画をオンライン配信で行いました。全都道府県、海外からもアクセスがあり、コロナ禍でも歩みを止めなかったことへ多くのエールをいただきました。

■第28回（2021年）：ハイブリッド開催をめざして準備しましたが、デルタ株の流行により今回もフルオンラインでの開催に。懇親会で長年お世話になってきた「迎珍」閉店の知らせに、集えないもどかしさややるせなさを感じました。

■第29回（2022年）：かながわ県民センターとオンラインでのハイブリッド開催で実施し、映画上映等の企画が復活しました。オープニングでは、なぜAIDS「文化」フォーラムなのかという話を改めて確認することができました。

■第30回（2023年）：会議室での対面講座が復活し、多くの会場で参加者との交流が復活しました。企画展示場はハコ物館作家コケ丸さんの「極私的梅毒展」、もたいひでのりさんによる30回のメッセージボード等のカラフルな展示に彩られました。

第30回AIDS文化フォーラム in 横浜を支えた人たち

主催 AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会

HIV/AIDS問題に取り組む団体の代表者で構成されています。「AIDS文化フォーラムin横浜」を主催し、その社会的責任を負います。

◇公益財団法人横浜YMCA 佐竹博(組織委員長) ◇社会福祉法人横浜いのちの電話 松橋秀之
◇カトリック横浜教区 鈴木真 ◇ワイズメンズクラブ国際協会東日本区湘南・沖縄部 黒川勝

共催 神奈川県

毎年、共催として会場「かながわ県民センター」を提供しています。また、組織委員会、運営委員会にも列席し、関係者への参加依頼や広報をはじめとした事前準備にも協力しています。

担当:神奈川県健康医療局 医療危機対策本部室



助成金 公益財団法人エイズ予防財団

令和5年度エイズ予防財団助成金「エイズ予防に関する啓発普及事業」として、横浜、京都、陸前高田、佐賀、名古屋での「AIDS文化フォーラム」開催による普及啓発に助成していただきました。

後援

◇横浜市医療局健康安全課 ◇川崎市 ◇相模原市 ◇横須賀市 ◇藤沢市 ◇茅ヶ崎市
◇横浜商工会議所 ◇神奈川県教育委員会 ◇公益財団法人エイズ予防財団 ◇神奈川新聞社 ◇tvk

企画運営

AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会

フォーラムを運営するボランティアの集まりです。医師、保健師、教師、NGO/NPO関係者、アーティスト、共催の担当者、フォーラム大好きでずっと関わりを持っている人など、色々な立場の人がフォーラム開催に向けて年間を通して活動しています。

伊東和子 岩室紳也 大江浩 糟谷潤 金井多恵 川島真理子 熊谷洸介 白井美穂 高村文子 千代木ひかる 畠山雅行 母袋秀典 矢部尚美 山田雅子 吉永陽子 渡辺誠二 猪谷亜子 大塚英彦 櫻井純子 桜屋伝衛門 佐藤睦 彦根倫子 前田陸生 三宅晶子

ボランティア

宇田川紗夏 金子園子 齋優希 斉藤肇 杉田宏美 寺内美玖 鳥居咲希 長岡桃子 永田恒人 中村直靖 松田ケイリブ 松田ニ美世 村田匠吾 李浩 山崎圭(他多数)

事務局 横浜YMCA

組織委員会、運営委員会の円滑な運営、年度を超えての継続的な開催を補佐します。30年前にフォーラムを立ち上げる際の呼びかけ人となった横浜YMCAが継続して事務局を務めています。

担当:横浜YMCA 国際・地域事業 柳原絵里子・肖欣怡・石川晴美

編集後記 30回目を迎えることができたAIDS文化フォーラム in 横浜ですが、2020年から2023年までの4年間は、それこそ1990年代同様、新たなウイルス(COVID-19)だけではなく、会場の確保、プログラムの運営方法、PR方法を含め、いろいろなことを考え、多くの反省点が浮かび上がりました。この貴重な経験を運営委員会で議論を重ね、時代の、社会のneeds、すなわちフォーラムの意味とこの時代に、今の社会に必要とされているフォーラムとは何かを考え、2024年の第31回のフォーラムに向けてできることを考え続けたいと思いました。(岩室紳也)

AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会規約

1. 名称

この会は「AIDS文化フォーラム in 横浜 組織委員会」と称する。
(以下、「組織委員会」と略す)

2. 趣旨

1994年8月に横浜で開催された第10回国際エイズ会議を機に、市民の手による全ての人に開かれた場として「AIDS文化フォーラム in 横浜」を開催してまいりました。回を重ねていく中で、全国各地でHIV/AIDSに取り組む各団体・個人の発表・交流の場として、また多くの市民、特に若い人々に向けての啓発の場として定着してまいりました。組織委員会は、このフォーラムの主催者として、偏見や差別をなくし、制度や利害の壁を乗り越えて、いつの時代にも、だれもが一人の人間としての尊厳を保ち、共に生きていく世界を築く事を目指して、市民の手による、市民のための、すべての人に開かれた集いを開催します。

3. 目的

- 1) 広く市民に開かれたフォーラムとする。
- 2) 若い世代、特に学生の参加を期待して、工夫する。
- 3) すべてがボランティアによる、市民の手による、市民のための、手弁当型のフォーラムとする。
- 4) AIDSボランティアと市民の交流の機会とする。
- 5) AIDSに日ごろから関係する団体やグループがフォーラムの進行をリードする。
- 6) AIDS関係団体、グループのネットワーク形成・交流の機会とする。
- 7) AIDSに関する多面的な啓発活動を行う。
- 8) AIDSについて、医学面や政策面のみではなく、文化面から積極的に捉える。
- 9) AIDSへの様々な取り組みの中で、一人ひとりが共に生き、連帯し、未来への希望をつなぐために力をつける（エンパワーメント）集いとする。



4. 構成

組織委員会は、エイズ問題に関心を持つ諸団体の代表者で組織する。

5. 委員長

委員長は、組織委員会の中から互選により選出し、組織委員会を代表する。

6. 組織委員会の開催

組織委員会は年4回、委員長の招集により開催する。また、必要に応じて委員長が必要と認めた場合に開催することができる。

7. 組織委員会の役割

「AIDS文化フォーラム in 横浜」開催の主催者となり、このフォーラム開催に関して最終責任を負う。

8. 運営委員会の設置

組織委員会の下に運営委員会を設置し、フォーラムの企画運営を委託する。組織委員会は運営委員会の働きを監督、支援する。運営委員は、HIV/AIDS問題及びフォーラムに関わるボランティアメンバーの中から選出する。

9. 事務局の設置と役割

組織委員会の事務局を横浜YMCA内に設置する。

常設の事務所を横浜YMCAに設置し、スタッフ2名が担当する。

事務局の役割は次の通りとする。

- 1) 組織委員会・運営委員会との連絡調整を行い、フォーラムの円滑な運営を助ける。
- 2) 予算を管理する。
- 3) 年度を越えての継続的な開催を補佐する。

10. 財政

フォーラムの運営に必要な経費は、組織委員会主催（運営委員会へ委嘱）の事業収益・寄付金、助成金及び組織委員会を構成する団体からのキーマネーをもってまかなうものとする。年度のキーマネーは、1団体につき20,000円とする。

11. 年度及び任期

組織委員会の年度は毎年4月から翌年3月までとする。

組織委員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。なお次年度の委員については、当年度最終の委員会で選出する。

12. その他

この規約に定めるものの他、組織委員会の運営に関して必要な事項は組織委員会の議を経て定めるものとする。

(付則) この規約は、2008年4月7日から施行する。

協賛・寄付

ご協力に感謝申し上げます

| | |
|--|---|
| 一般社団法人ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11 日本YMCA同盟会館2階 TEL : 03-5367-6652 URL : http://ys-east.or.jp/ | ヴィーブヘルスケア株式会社 〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1赤坂インターシティAIR TEL : 03-4231-5150 FAX : 03-4231-5983 URL : http://glaxosmithkline.co.jp/viiv/index.html |
| ジェクス株式会社 〒540-0012大阪府大阪市中央区谷町2-3-12 マイルト谷町ビル11F URL : https://www.jex-sh.jp/ TEL : 06-6942-9002 FAX : 06-6941-5234 | ギリアド・サイエンシズ株式会社 〒100-6616 東京都千代田区丸の内1-9-2グラントウキョウ サウスタワー16F URL : https://www.gilead.co.jp/ |
| ヤンセンファーマ株式会社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2 TEL : 03-4411-7700 URL: https://www.janssen.com/japan/ | MSD 株式会社 URL : https://www.msdd.co.jp/ |

参加団体等名称・索引

| | | |
|---------------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 名称順 | 土岐紗理 |P15 |
| アジアの女性と子どもネットワーク | 特定非営利活動法人かながわ外国人すまいサポートセンター |P15 |
| 有馬祐子 | 戸羽太 |P11 |
| 石原千晶 | ナナさん |P8 |
| 今井伸 | ナルコティクスアノニマス |P17,26 |
| 岩田健太郎 | 日本HIV情報センター(JHIC) |P26 |
| 岩室紳也(コンドームの達人) | 人間と性教育研究協議会・神奈川性教育サークル「かながわ |P16 |
| 岡笑叶 | サークルせいせい」 |P16 |
| 奥井裕斗 | 認定NPO法人AIDSネットワーク横浜 |P12 |
| 水主川純 | ハピママメーカープロジェクト |P16 |
| 風間暁 | ピースさん |P9 |
| かずえちゃん | 福正大輔 |P8 |
| カトリック中央協議会HIV/AIDSデスク | 古川潤哉 |P11,14 |
| 神奈川県歯科医師会 | 星野貴泰 |P12,15 |
| 神奈川県ユニセフ協会 | 松本俊彦 |P9 |
| カワセク | 水上健次 |P14 |
| 北山翔子 | 水谷修 |P20 |
| 厚生労働科学研エイズ対策研究班 | 薬害エイズを考える山の手の会 |P21 |
| 「極私的梅毒展」コケ丸 | 柳田正芳 |P15 |
| 後藤智己 | 山田雅子 |P10,19 |
| 佐々木亮平 | 横浜市青少年育成センター |P27 |
| 椎名雄一 | 横浜雙葉中学高等学校 茶道部 |P22 |
| ジェクス株式会社 | 横浜AIDS市民活動センター |P20,25 |
| ジェンカレ ゼミ生 1期 有志 | 横浜YMCA国際・地域事業 |P10 |
| シオリヌ(大貫詩織) | ◆アルファベット団体名 | |
| 上智大学エンパワーメントサークルSpeak Up Sophia | AIDS文化フォーラム in 京都 |P28 |
| 白阪琢磨 | AIDS文化フォーラム in 佐賀 |P28 |
| 性の健康イニシアチブ | AIDS文化フォーラム in 名古屋 |P28 |
| 平良愛香 | AIDS文化フォーラム in 横浜 |P6,8,9,10,20,21,22,28 |
| 塚本堅一 | AIDS文化フォーラム in 陸前高田 |P28 |
| | SPAWhite |P18 |

2023 (第30回) AIDS文化フォーラム in 横浜 報告書

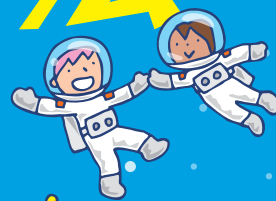
発行日 : 2023年11月10日
 発行者 : AIDS文化フォーラム in 横浜組織委員会
 編集 : AIDS文化フォーラム in 横浜運営委員会
 イラスト協力 : もたいひでのり
 連絡先 : AIDS文化フォーラム in 横浜事務局
 〒231-8458 横浜市中区常盤町1-7横浜YMCA内 TEL : 045-662-3721 FAX : 045-651-0169
 E-mail : abf@yokohamaymca.org URL : <https://abf-yokohama.org/>
 Twitter (X) : <https://twitter.com/ms199315> Facebook : <https://www.facebook.com/abfyokohama/>



第30回

AIDS文化フォーラム

in YOKOHAMA



みんなで作る新しい未来



おかげさまで30回を迎えたAIDS文化フォーラム。今回は、3年振りにリアル会場をメインとして開催し、全国から様々な方々が集いました。再会、新しい出会い。フォーラムは、これからも皆さんと一緒に、社会の大切なことを考えていきます。「未来は今を生きる私たちが作るもの。」これからも、みんなでステキなフォーラムを作っていきましょう!!

来場者&運営委員
メッセージ



新しいつながりが
次のつながりに
むくむく成長する夏!
K



つながりの中に
みんなそれぞれの
居場所があるんですね。
M



30年間
会場を支えて下さった
ボランティアのみなさまに
感謝いたします。N



これからも、
時に合った活動が
続けていけますように
HP

興味がないことに
目を向けると、
見える世界が広がるよ
S

日本エイズ学会に事務局、
運営委員の皆様と
出展したことが
思い出深いです。S



AIDS文化フォーラムを
通してたくさんの仲間が
できました。星になった
仲間にも乾杯! H



30回の記念品
エコバッグ&うちわ

第31回 AIDS文化フォーラム in 横浜 2024 8/2金→4日

発表・展示主催者、来場者・視聴者、ボランティアなど、参加方法は様々。入場無料・参加自由
みなさんにご参加お待ちしております!!

詳細はホームページをご覧ください! <https://abf-yokohama.org/>

Facebook <https://www.facebook.com/abfyokohama/>

